

2022年12月期

決算説明資料

2023年2月



東京証券取引所

<証券コード：8508>

免責事項および注意事項

- ◆ 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- ◆ 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、正確性を期すために慎重に作成しておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の予測や情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- ◆ セグメント収益は、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含んだ営業収益を表示しています。
- ◆ 金融商品取引業の業績は経済情勢および市場環境の変動を大きく受けるため、業績を適正に予想し、開示することは極めて困難であることから、2023年12月期業績予想にJトラストグローバル証券の業績は織り込んでいません。
- ◆ 本資料では、社名を以下のとおり略称で記載しています。
Jトラスト銀行インドネシア (BJI) / Jトラストロイヤル銀行 (JTRB)
JT親愛貯蓄銀行 (JTCSB) / JT貯蓄銀行 (JTSB) / Jトラストグローバル証券 (JTG証券)
- ◆ 親会社の所有者に帰属する当期利益を当期純利益と表示しています。



01 | 現状と今後の見通し

02 | 2022年12月期 連結決算概要

03 | 2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

04 | 2023年12月期 連結業績予想と3か年計画

JTラストグループ 現状と今後の見通し

2023年12月期の当期純利益計画値について

BJIは業績拡大のペースが加速

JTG証券および不動産事業による富裕層向けビジネスの拡大

- ・JTG証券、提携銀行、日本保証の提携による証券担保ローン等の拡大
- ・Jグランドは前年比3倍超の売上100億円超を計画

Nexus Cardの割賦事業について

業務提携先のエステ、ジム、ゴルフ、クリニック等を通じて年間100億円の割賦取扱いを計画し、その大半が日本保証の信用保証残高に寄与

株主還元の強化について

2022年12月期 通期予想に対する達成率

➤ 営業収益および全ての利益項目で、2022年8月の上方修正後の通期予想を達成

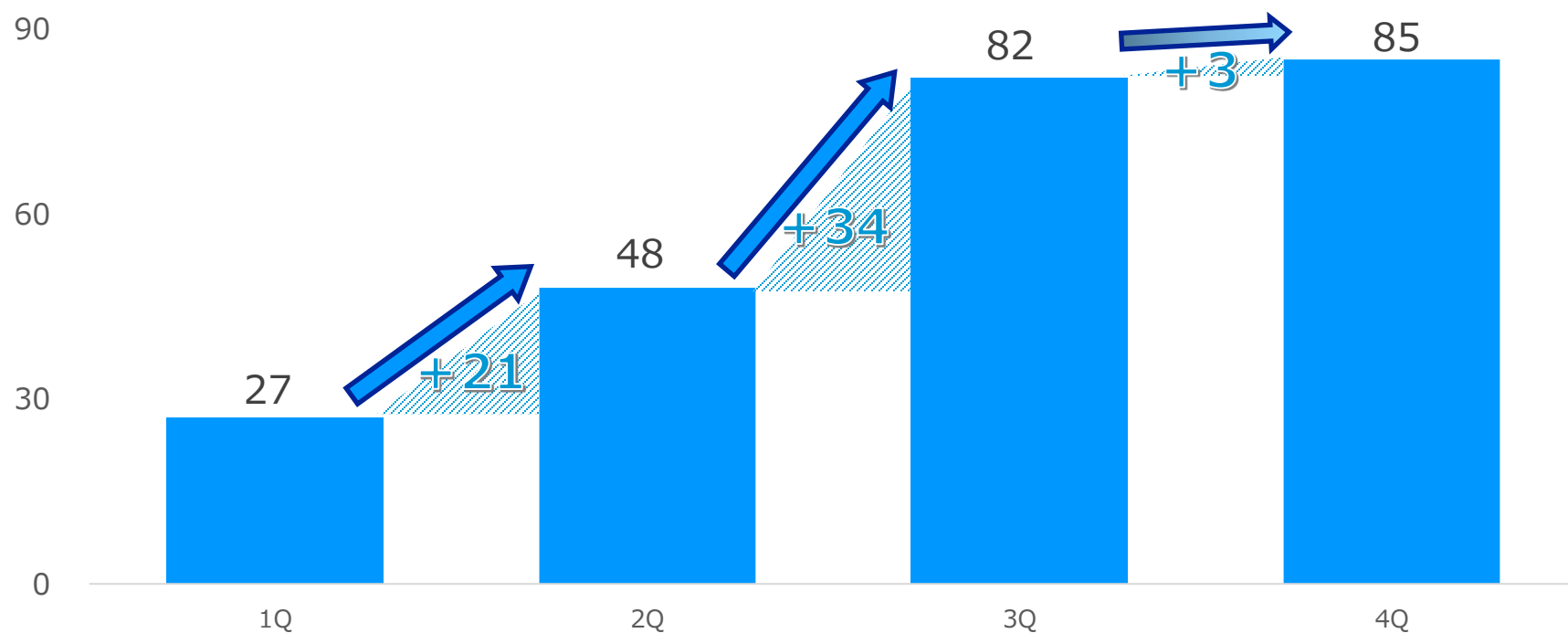
	FY12/2022		達成率
	通期予想	通期実績	
営業収益	790億円	824億円	104%
営業利益	130億円	143億円	111%
税引前利益	160億円	169億円	106%
当期純利益	120億円	126億円	105%

金融3事業の営業利益の推移(負ののれん益を除く)

➤ 10月～12月は韓国の金利上昇等の影響を受け、利益成長にブレーキ

四半期ごとの金融3事業の営業利益の推移（累計）

単位：億円

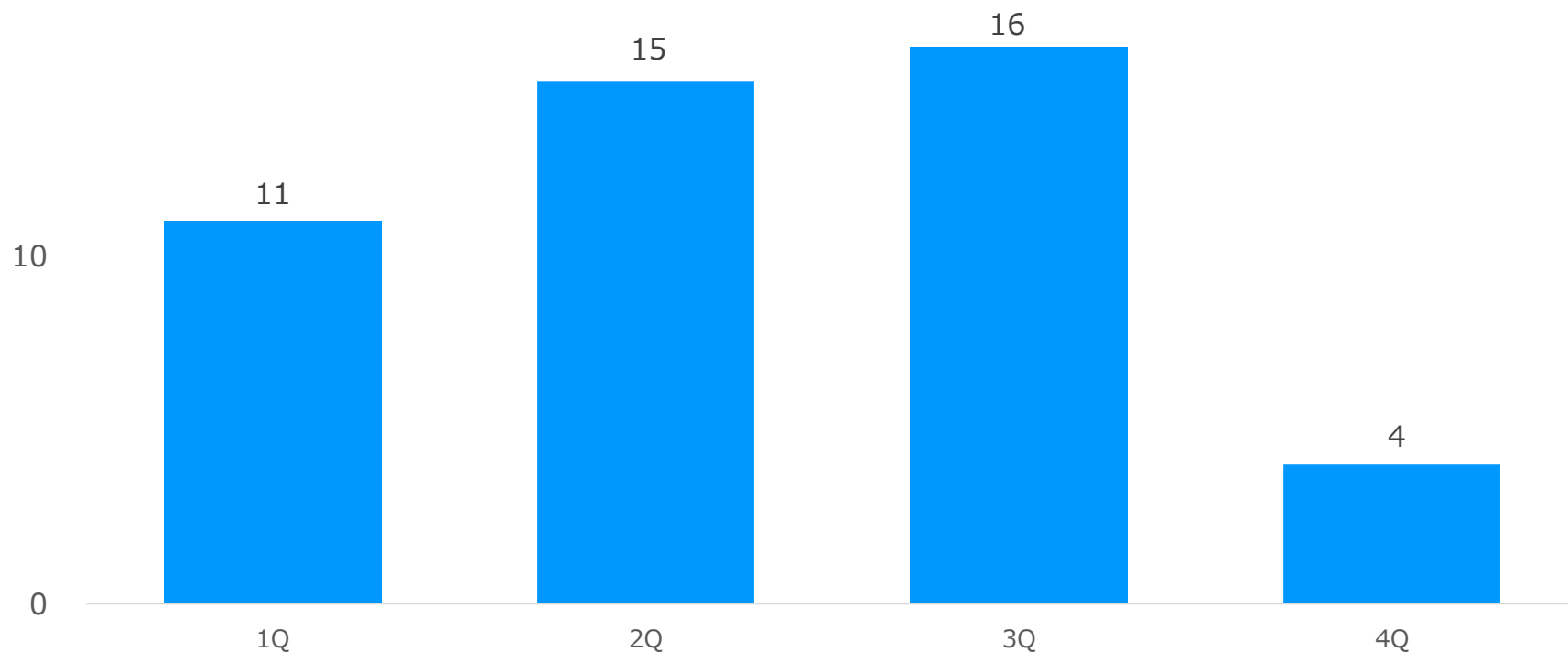


2022年12月期 韓国及びモンゴル金融事業の営業利益の推移(負ののれん益を除く)

➤ 韓国の金利上昇等の影響を受け、営業利益は4Qに4億円に縮小

四半期ごとのセグメント利益の推移

単位：億円

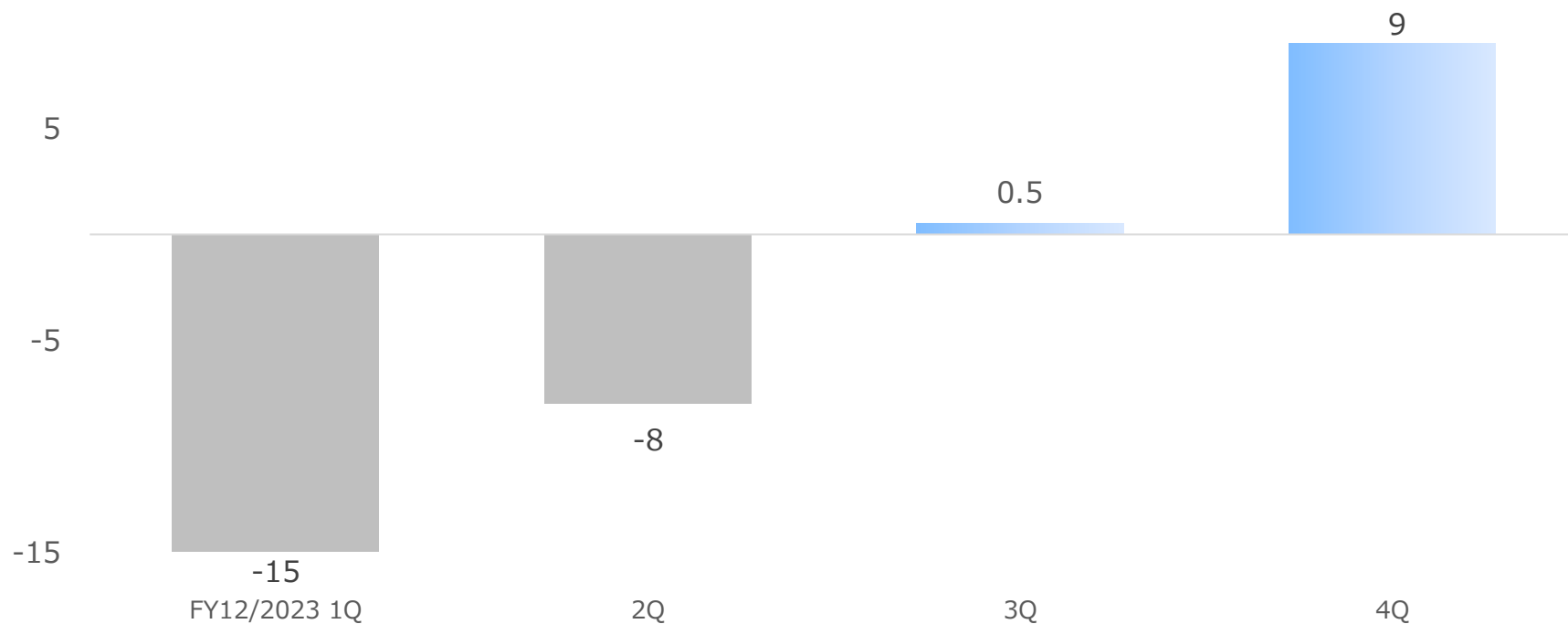


2023年12月期 韓国及びモンゴル金融事業の営業利益の予想

- 預金の主力が1年定期であり、昨年の秋集めた高金利預金の影響は時間の経過とともに剥落
- 2023年12月期は3Qに黒字転換、4Qは回復し2024年12期には正常化を想定

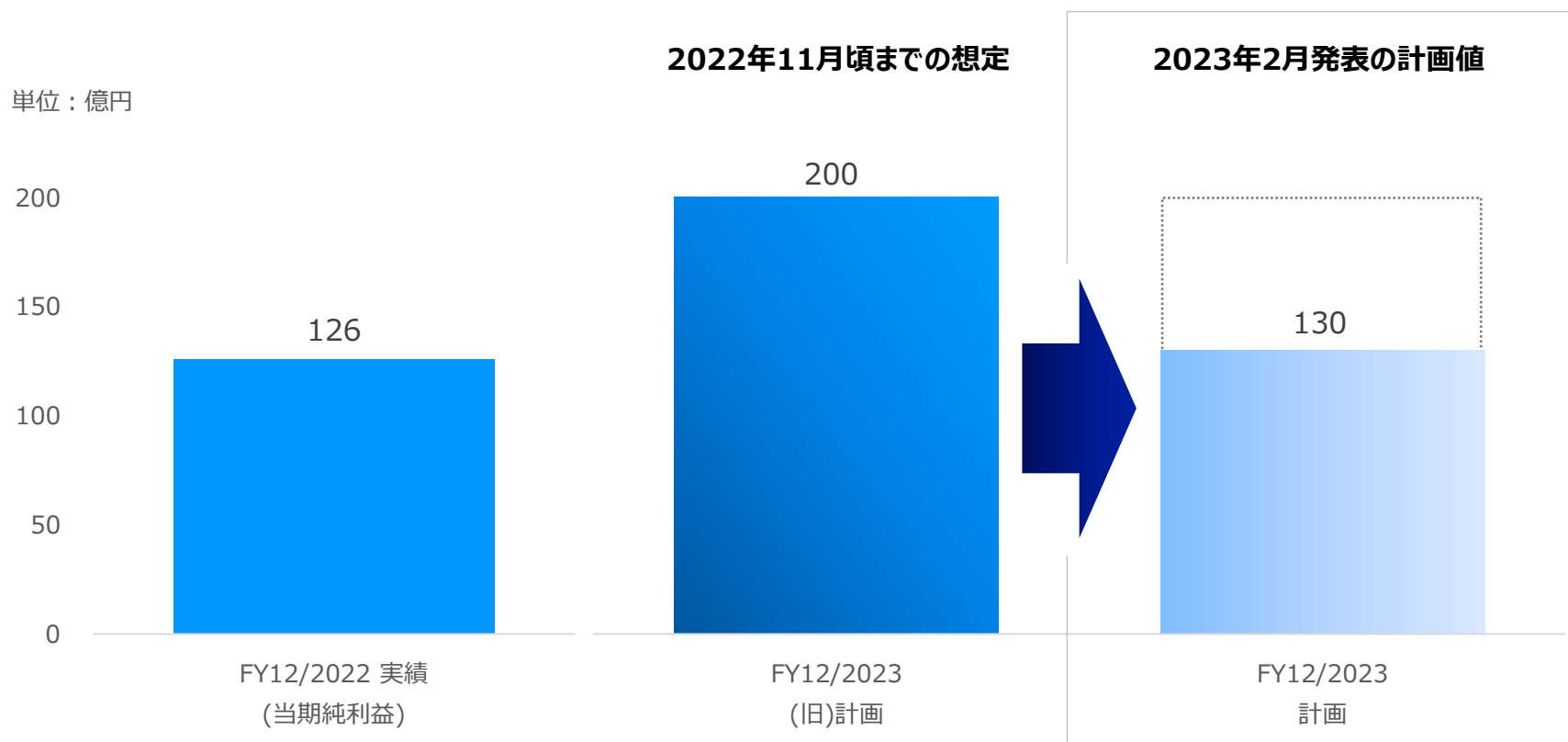
四半期ごとのセグメント利益の推移

単位：億円



2023年12月期 通期計画

- 2023年12月期の当期純利益は130億円と計画
- 2023年12月期の当期純利益について、2022年11月頃までは200億円と予想していたが、韓国における金利上昇等の影響により130億円に

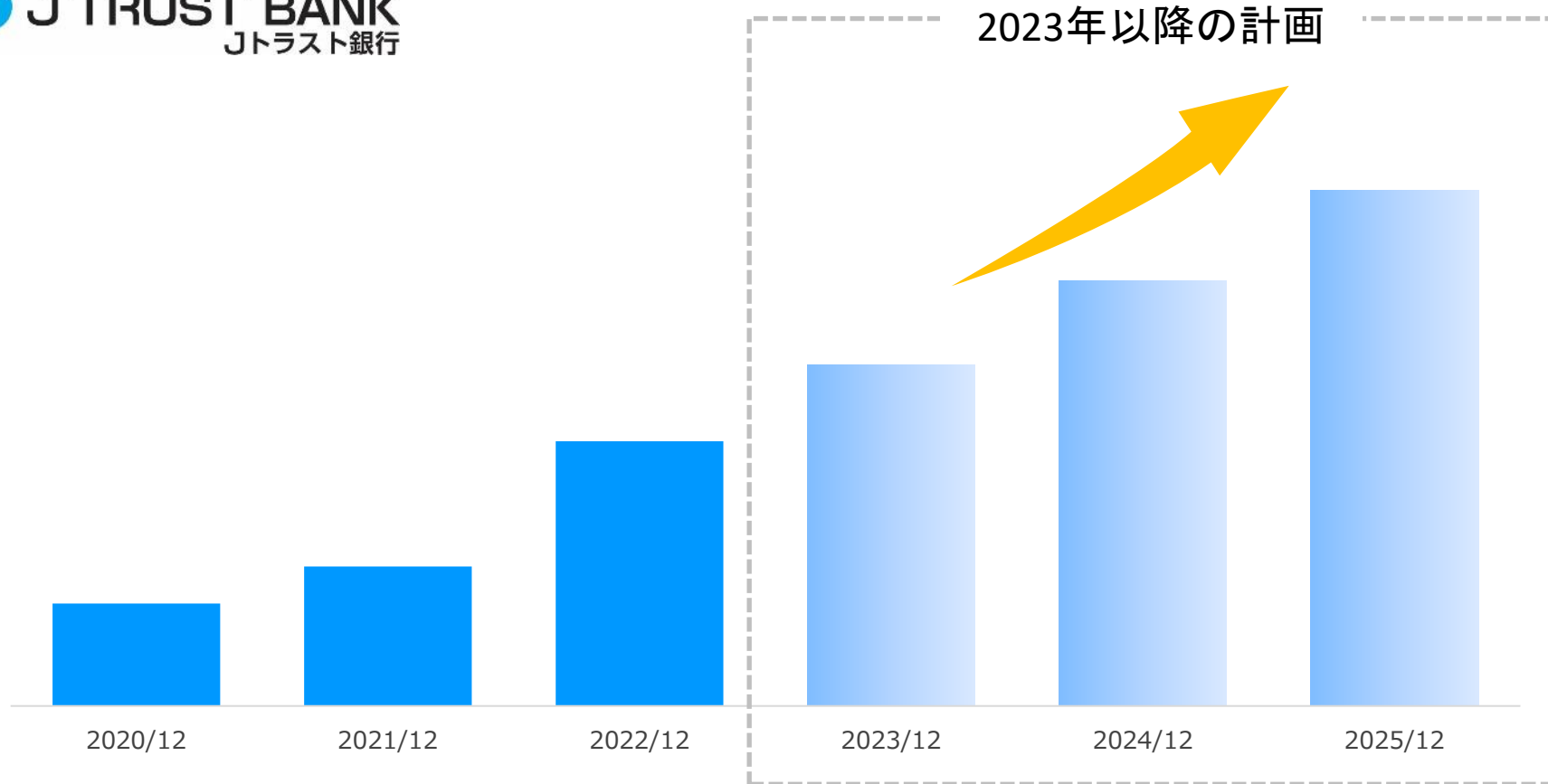


今後の成長の牽引役 BJIの貸出残高の計画

- 貸出残高は前期比でほぼ倍増、2023年12月期以降も大幅な増加を計画



2023年以降の計画



インドネシア銀行業界におけるBJIの貸出残高ランキング

➤ 商業銀行106行中、貸出残高においては39位（2022年9月30日基準）

単位：百万ルピア

No	金融機関名	貸出残高
1	PT BANK MANDIRI (PERSERO) Tbk	1,138,941,125
2	PT BANK RAKYAT INDONESIA (PERSERO) Tbk	1,054,722,713
3	PT BANK CENTRAL ASIA Tbk	674,471,106
4	PT BANK NEGARA INDONESIA (PERSERO) Tbk	622,607,449
5	PT BANK TABUNGAN NEGARA (PERSERO) Tbk	259,345,819
38	PT BANK MUAMALAT INDONESIA Tbk	17,721,262
39	PT BANK JTRUST INDONESIA Tbk	17,606,401
40	PT BPD PAPUA	17,240,384
104	PT BANK FAMA INTERNASIONAL	681,175
105	PT BANK VICTORIA SYARIAH	539,835
106	PT BANK ALADIN SYARIAH Tbk	302,367

富裕層向けビジネス① JTG証券の取り組み

- JTG証券、提携銀行、日本保証の協業による新たな金融商品は好評
- JTG証券の顧客の株式や外債を担保として、提携銀行がローンを提供し、日本保証が保証

SAIKYO 西京銀行

有価証券担保ローン

適用金利 (固定金利,保証料含む)

年0.9%~2.98%

※適用する金利は申込みいただいた内容や審査結果等により決定いたします。

今こそ資産を有効活用

- 使い道は自由
- お得な金利設定
- お借入額最大3億円

Jトラストグループ

JTG証券

Jトラストグローバル証券

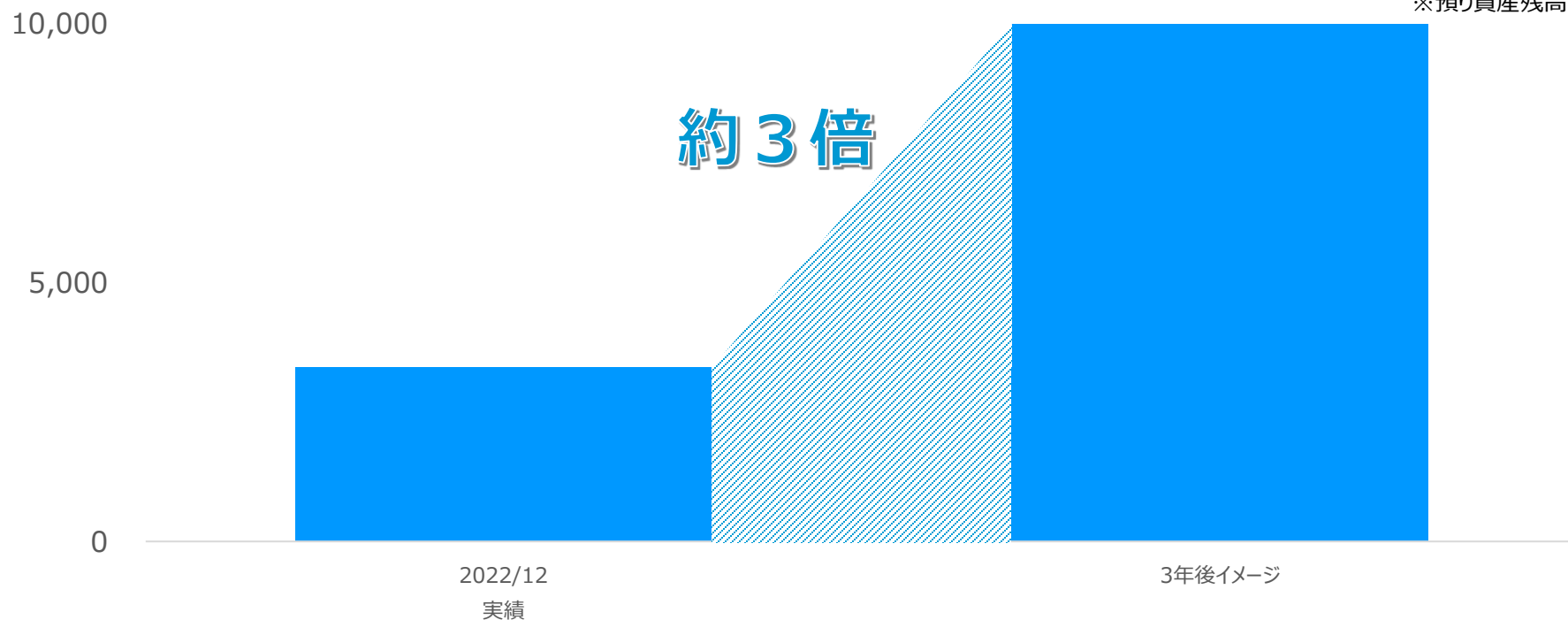
JTG

↑フリーアナウンサー高島彩さん出演TVCM

富裕層向けビジネス① JTG証券の取り組み

- JTG証券の預り資産は3年後を目標に1兆円を目指す
- 体制を整備し、JTG証券とJトラストグループ各社および提携銀行の協業による新商品の開発など、新たな富裕層向けビジネスの拡大を目指す

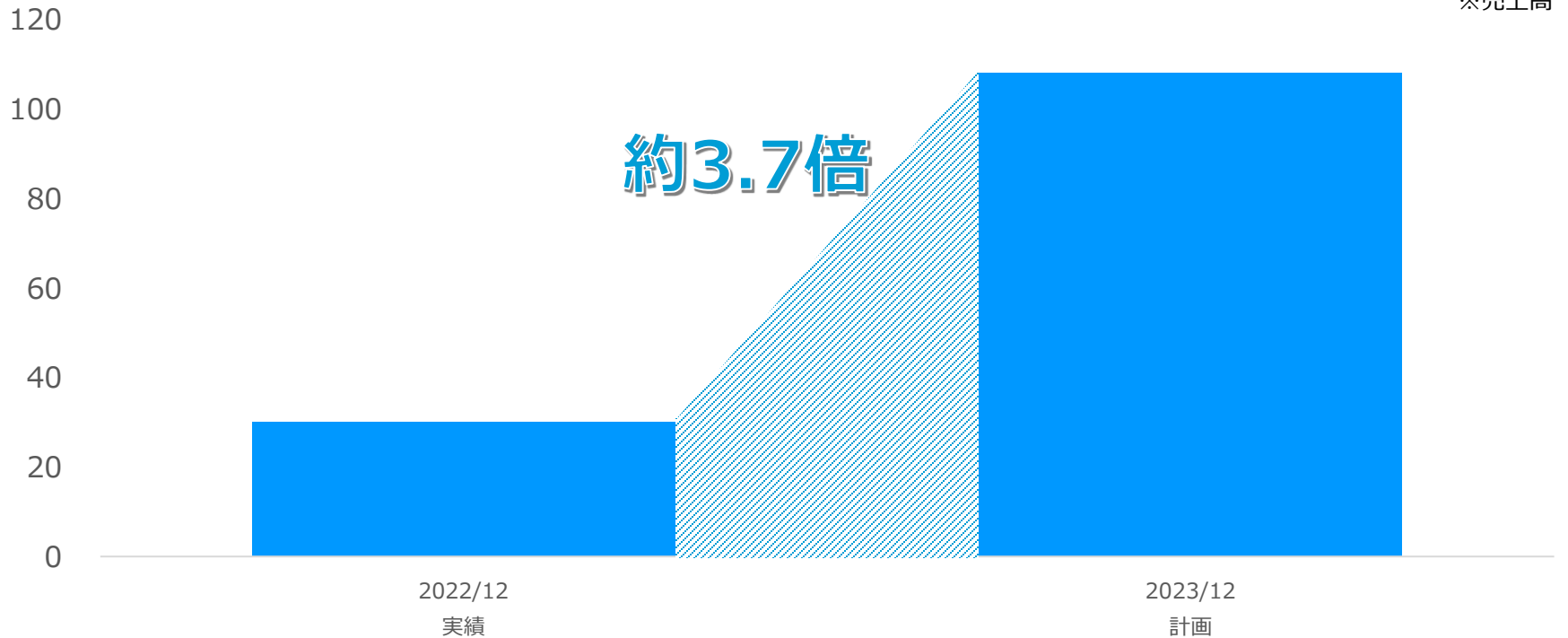
単位：億円



富裕層向けビジネス② Jグランドの不動産事業

- 2022年12月期約30億円の売上が、2023年12月期は約3.7倍の108億円に拡大へ
- Jグランドの売上のほぼ全額が日本保証の信用保証残高に直結
- Jグランドは事業拡大に伴いIPOを計画

単位：億円



ミライノバートとの合併効果

- ミライノバートの吸収合併により、不動産事業を一層拡大
- ミライノバートの2022年3月期不動産事業における売上高は73億円、営業利益は10億円
- 不動産事業の一層の拡大に伴い、2023年12月期より不動産セグメントを新設予定

gro-bels

J-GRAND

※旧：日本ファンディング株式会社



+

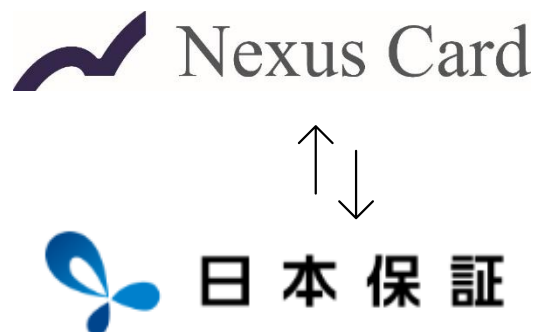


**不動産事業のさらなる拡大により
日本保証の信用保証残高を積み上げ**

Nexus Cardと日本保証のグループシナジー

- 男性脱毛業界最大手のメンズクリアをはじめとした提携先とのエステ、ジム、ゴルフ、クリニックを通じたNexus Cardの割賦事業は好調
- 今期100億円超の割賦取扱いを計画

Jトラストグループ



提携加盟店

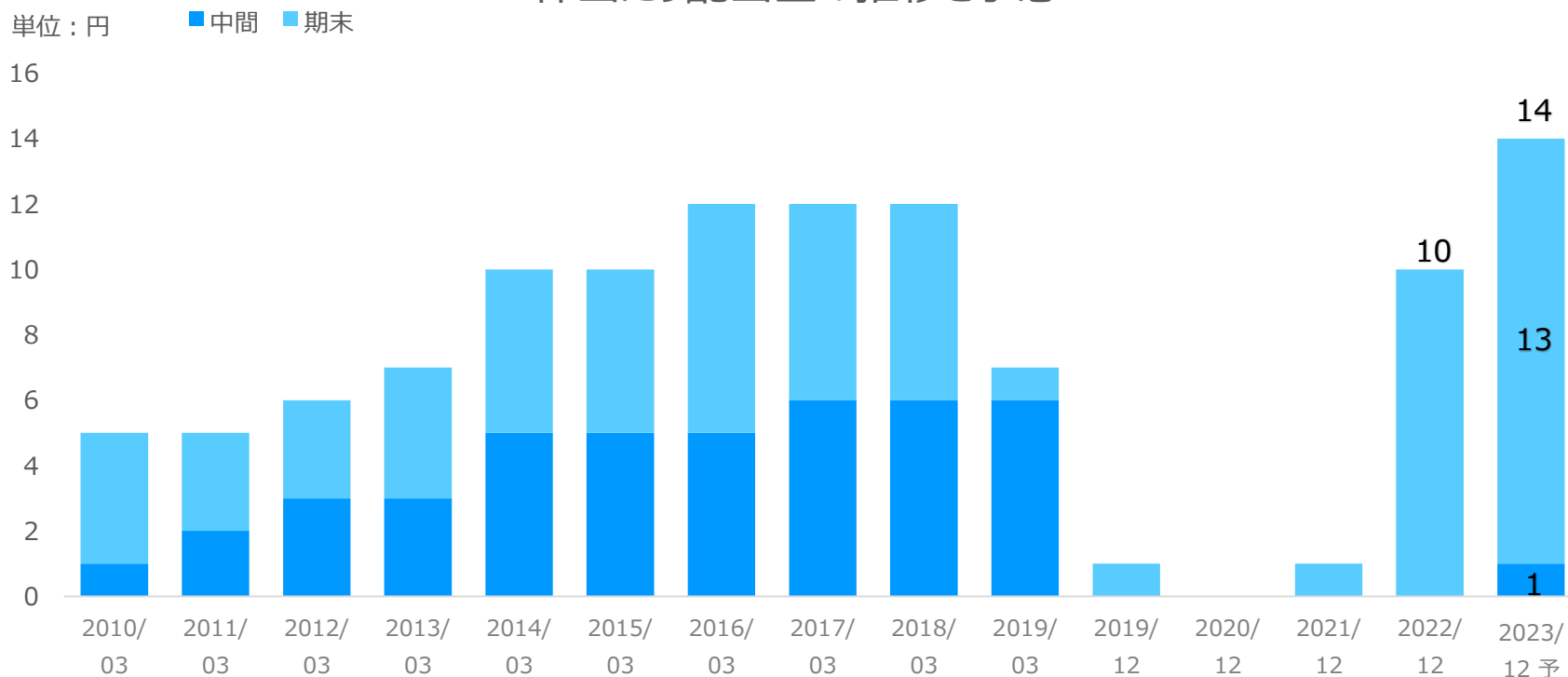


**提携先の割賦をNexus Cardが担い、
割賦売掛金残高の増大が日本保証の保証残高に直結**

1株当たり配当金の推移と予想

- 2023年以降の業績拡大見込みから、2023年12月末の配当は前期の10円から14円に増配へ
- 中間配当も再開

1株当たり配当金の推移と予想



(※) 2012年6月の株式分割を考慮した遡及調整後。2016年3月は記念配当2円を含む。

株主優待について

- 配当と併せて年間を通じ四半期ごとに株主還元を実施
- 株主優待は、オーブスパ施術チケット、さらには男性脱毛業界最大手のメンズクリアをはじめとした提携加盟店とのエステ、ジム、ゴルフ、クリニックの18万円分の優待券を贈呈

オーブスパ トリートメントチケット (500株～)

内容	基準月	金額
トリートメントチケット (100分)	3月	22,000円相当

※ベントハウスを除く



提携加盟店の優待券 (100株～)

内容	基準月	金額
チキンゴルフ (パーソナルゴルフ)	3月	3万円分
DSクリニック (メンズ・レディース美肌/痩身施術)		3万円分
メンズクリア (メンズ・脱毛)	9月	3万円分
ミラクリニック (レディース・医療脱毛)		3万円分
ストラッシュ (レディース・脱毛)		3万円分
チキンジム (パーソナルジム)		3万円分

配当＋優待利回り
最高**300%超**

※2023年2月13日の終値で算出



01 | 現状と今後の見通し

02 | 2022年12月期 連結決算概要

03 | 2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

04 | 2023年12月期 連結業績予想と3か年計画

2022年12月期 通期予想に対する達成率

➤ 営業収益および全ての利益項目で2022年8月の上方修正後の通期予想を達成

	FY12/2022		達成率
	通期予想	通期実績	
営業収益	790億円	824億円	104%
営業利益	130億円	143億円	111%
税引前利益	160億円	169億円	106%
当期純利益	120億円	126億円	105%

連結決算概要（前期比）

- 前期比で増収増益
- 営業利益は過去最高を記録

	FY12/2021 通期	FY12/2022 通期	差額（※）
営業収益	423億円	824億円	401億円
営業利益	52億円	143億円	91億円
税引前利益	58億円	169億円	111億円
当期純利益	11億円	126億円	115億円

（※） 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しています。

セグメント別営業収益（前期比）

- ▶ 東南アジア金融事業が前期比で124億円の増収
- ▶ 韓国及びモンゴル金融事業の増収には、JTCSBの子会社化が寄与

	FY12/2021	FY12/2022	差額 (※1)
日本金融事業	97億円	117億円	20億円
韓国及び モンゴル金融事業	148億円	384億円	236億円
東南アジア金融事業	167億円	291億円	124億円
投資事業	6億円	2億円	-4億円
その他	8億円	34億円	26億円
連結営業収益（※2）	423億円	824億円	401億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しています。

(※2) 連結営業収益は連結調整後の数値となります。

セグメント別営業損益（前期比）

- ▶ 東南アジア金融事業は黒字転換
- ▶ 韓国及びモンゴル金融事業は、負ののれん益97億円(会計処理の確定により21億円追加)もあり増益
- ▶ 投資事業はシンガポールでの勝訴判決の影響が剥落

	FY12/2021	FY12/2022	差額 (※1)
日本金融事業	45億円	39億円	-6億円
韓国及び モンゴル金融事業	32億円	144億円	112億円
東南アジア金融事業	-63億円	0億円	63億円
投資事業	54億円	-22億円	-76億円
その他	4億円	2億円	-2億円
連結営業利益 (※2)	52億円	143億円	91億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しています。

(※2) 連結営業利益は連結調整後の数値となります。

銀行事業における預貸スプレッド

▶ 2022年12月時点の預貸スプレッドはBJIが4.0%、JTRBが4.2%、JTCSBは6.7%、JTSBは5.4%

	平均貸出金利 (2022年12月)	平均預金金利 (2022年12月)	預貸スプレッド (注)
BJI	8.7%	4.7%	4.0%
JTRB	7.7%	3.5%	4.2%
JTCSB	11.0%	4.3%	6.7%
JTSB	9.4%	4.0%	5.4%

(※) 預貸スプレッドは小数点1位で表示された数値の差額で計算しています。



- 01 | 現状と今後の見通し
- 02 | 2022年12月期連結決算概要
- 03 | 2022年12月期 セグメント別業績と取り組み
- 04 | 2023年12月期 連結業績予想と3か年計画

東南アジア金融事業

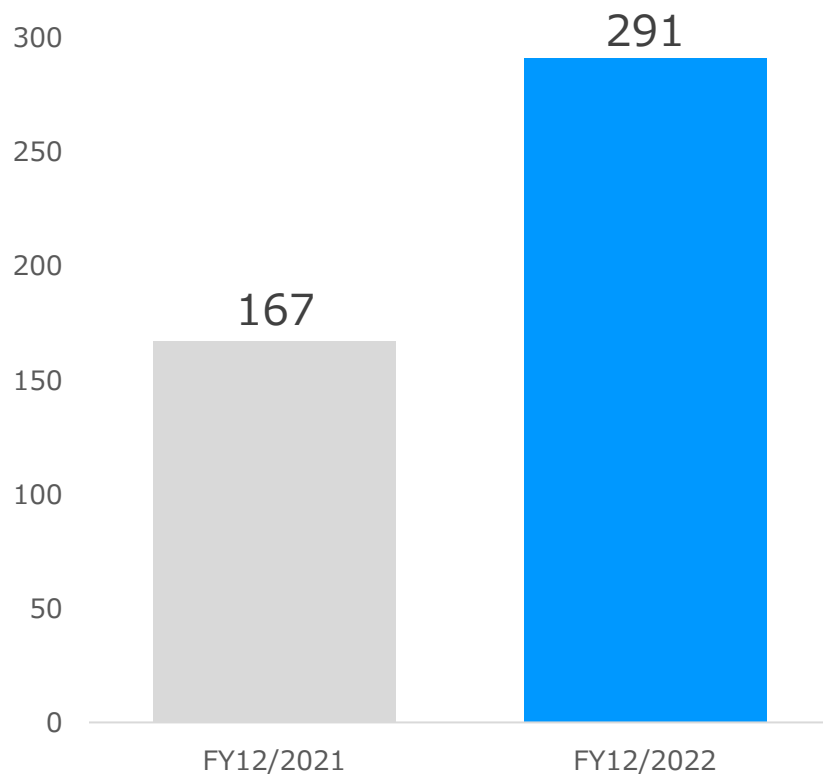
2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

東南アジア金融事業の営業収益と営業損益（前期比）

- 営業収益は銀行業における貸出金の増加に伴って利息収益が増加し124億円の増収
- 営業損益はBJIの黒字転換などから、前期比63億円の増益

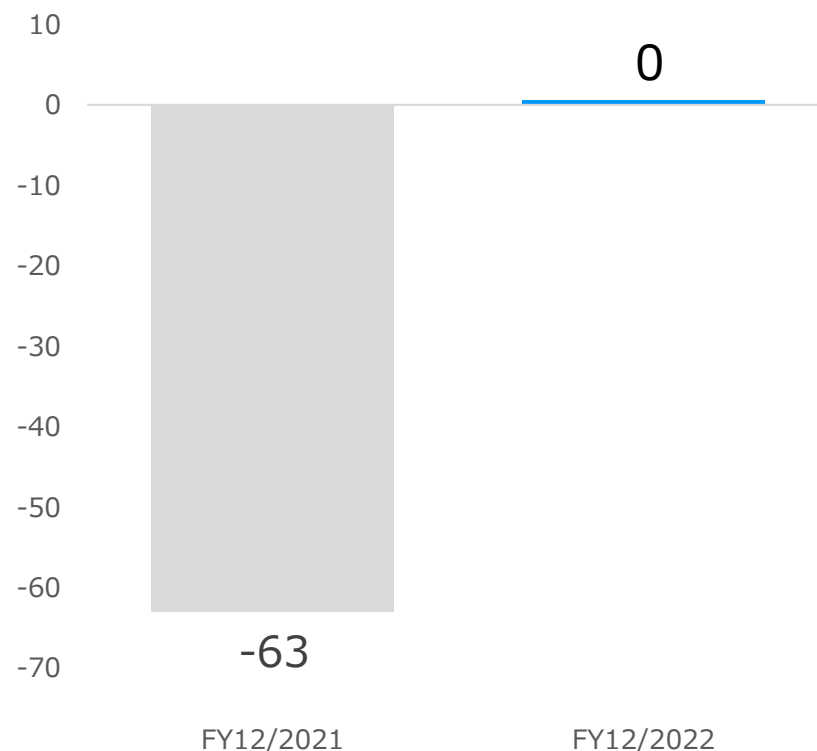
営業収益

単位：億円



営業損益

単位：億円



東南アジア金融事業（インドネシア）

2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

2022年12月期 BJIは営業黒字

➤ 2022年は前期比80億円増収、54億円増益

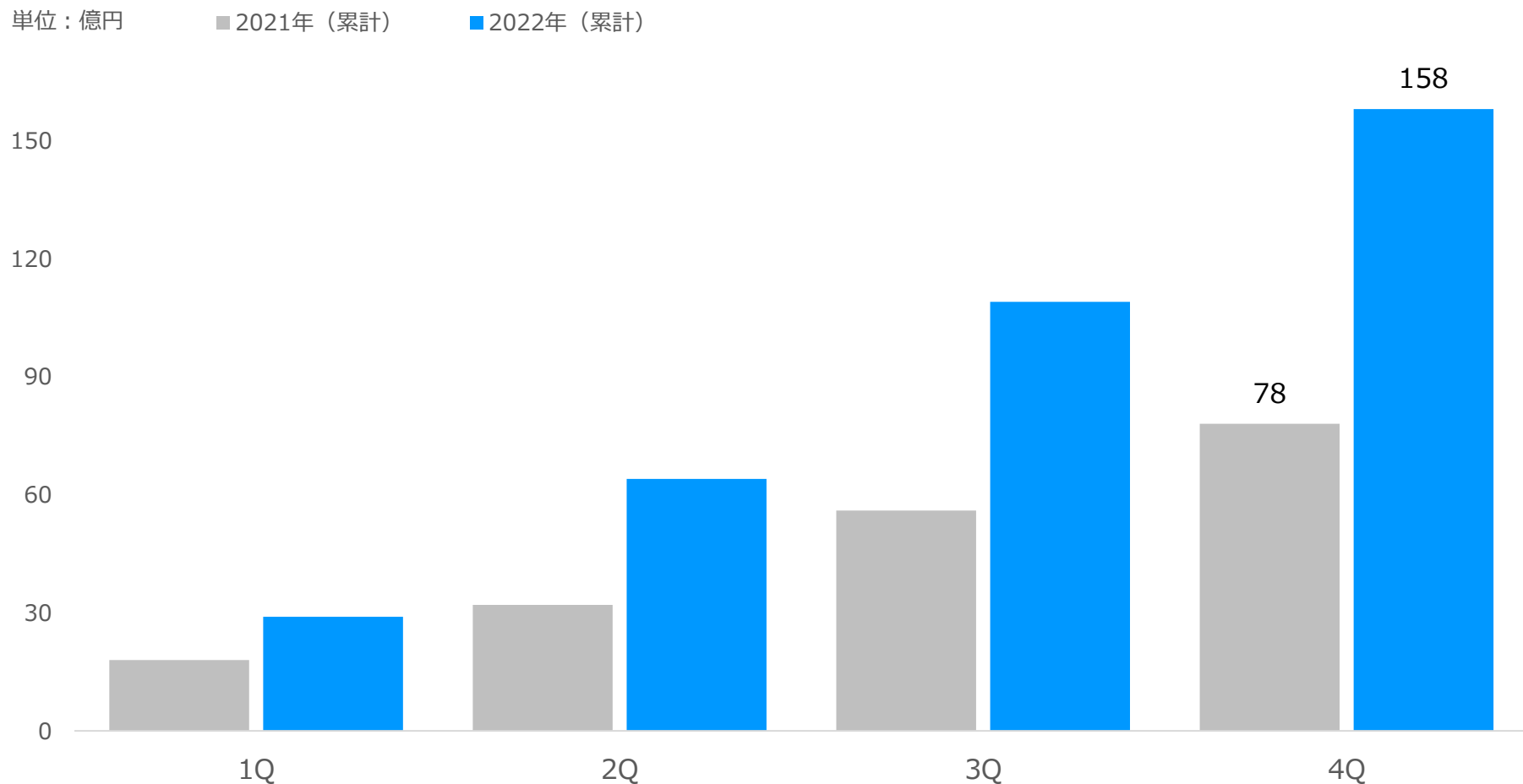


	FY12/2021 実績	FY12/2022 実績	差額 (※)
営業収益	78億円	158億円	80億円
営業損益	-43億円	11億円	54億円

(※) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しています。

BJIの営業収益の推移（前年同期比）

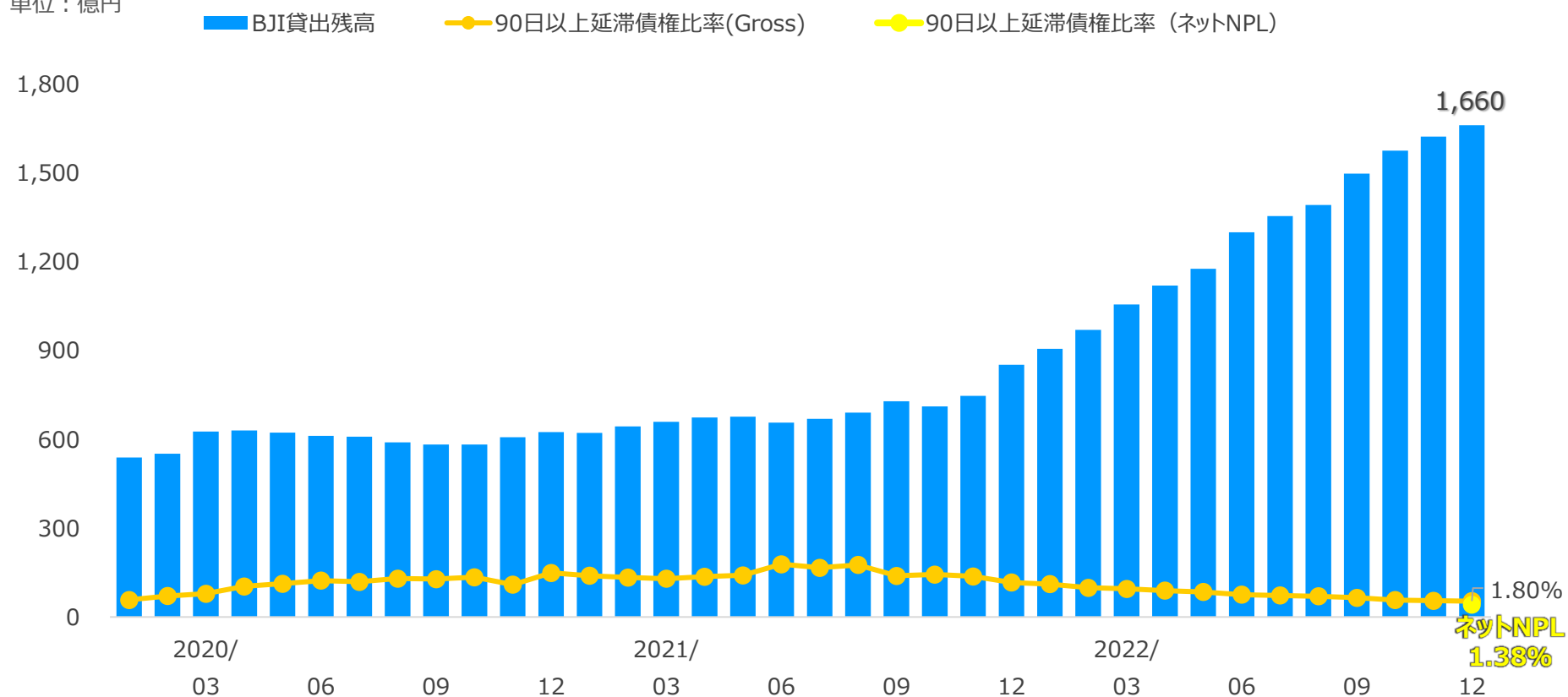
➤ 貸出残高の増加に比例して営業収益は前年同期比倍増



BJI 貸出残高とNPL比率

- 貸出残高は前期比で95%増
- 債権の不良化を抑制し、回収による不良債権金額の圧縮に加え、貸出残高の増加もありNPL比率は1.8%まで低下(2022年9月30日基準のインドネシア銀行業界の平均は2.8%)

単位：億円



(※) 現地通貨に12月末レート (1インドネシアルピア=0.0085円) を乗じて表示

BJIおよび主な競合銀行の貸出の状況

➤ 主な競合銀行と比べ貸出金額は大幅な伸び

単位：10億ルピア

	BJI	Bank Ina Perdana	MNC Bank	CCB Bank	Bank Victoria	CTBC Bank	Bank Resona
2022年11月 時点の前年同月比 増加額	10,293	5,019	2,324	1,775	862	791	689
同上伸び率 (%)	117.2%	119.1%	27.8%	12.8%	6.1%	6.3%	6.6%

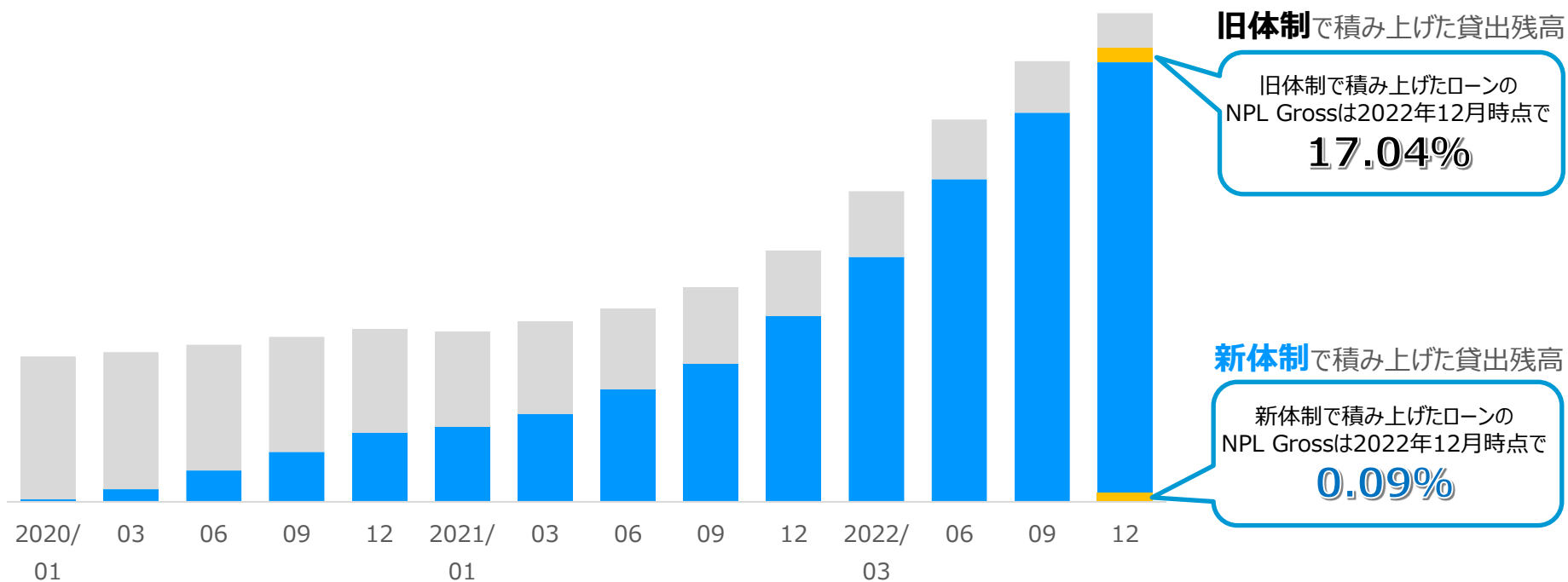
(※) コア資本が3兆ルピアから6兆ルピアの銀行は、KBMI1に区分されている。

KBMI1の銀行の中から競合を任意でピックアップし、各社のホームページよりデータを取得し作成。

2020年1月以降の新体制で積み上げたローン残高とNPL比率

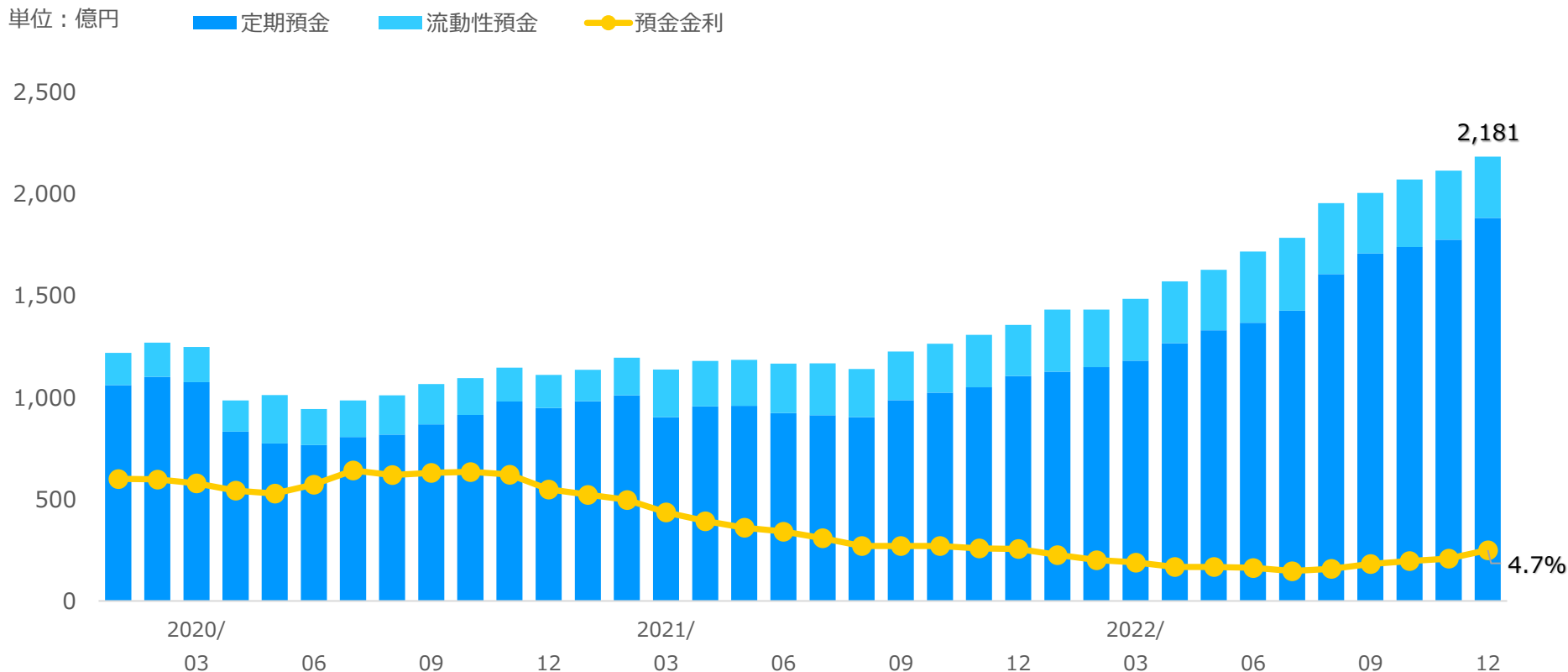
- 2020年1月以降、新体制（審査体制等の変更）により、リスクマネジメントを強化
- 新体制で、積み上げたローンのNPL比率(Gross)は2022年12月時点で0.09%
- 新体制による貸出残高は全体の89.93%(約1,493億円:約17.6兆ルピア)まで拡大

※12月末債権残高：19.5兆ルピア= 1,660億円



BJI 預金残高と預金金利の推移

- 預金残高は増加傾向が持続
- 預金金利は4.7%と、政策金利の引き上げの影響を受けたものの低水準
1月現在のインドネシアの政策金利は5.75%



(※) 現地通貨に2022年12月末レート（1インドネシアルピア=0.0085円）を乗じて表示

BJIおよび主な競合銀行の資金調達状況

➤ 主な競合銀行と比べ、資金調達額は大幅な伸び

単位：10億ルピア

	BJI	Bank Ina Perdana	MNC Bank	Bank Victoria	CTBC Bank	Bank Resona	CCB Bank
2022年11月 時点の前年同月比 増加額	9,481	2,897	2,622	1,237	-791	-803	-2,216
同上伸び率 (%)	61.7%	21.9%	24.0%	7.3%	-5.5%	-7.4%	-11.3%

(※) コア資本が3兆ルピアから6兆ルピアの銀行は、KBMI1に区分されている。
KBMI1の銀行の中から競合を任意でピックアップし、各社のホームページよりデータを取得し作成。

BJIの住宅ローンビジネス

- BJIは住宅ローンを含め、多くの日系企業と業務提携
- 2022年12月期の住宅ローン残高は前期比+35.5%と、インドネシアにおける住宅ローン全体の伸び率7%（※）を上回る

BJIの主な業務提携先（住宅ローン）

日系グループ	提携先	提携日
飯田グループ	PT. ABDILUHUR KAWULOALIT	2021年11月
	PT. I ONE HOME INDONESIA(ロンボク)	2021年11月
	PT. I ONE HOME INDONESIA(バリ)	2021年11月
	PT. HAJIME INDONESIA JAYA	2022年2月
株式会社ダックス	PT. Dax Jaya Indonesia	2022年3月
阪急阪神不動産	PT. Springhill Mizumi Serpong	2022年6月
CREED GROUP	PT. Jababeka Creed Residence	2022年8月
三菱商事グループ	PT.Pakuan.Tbk	2022年11月

※2022年11月は2021年末比+7%

1月5日付の産経新聞に 当社関連記事が掲載

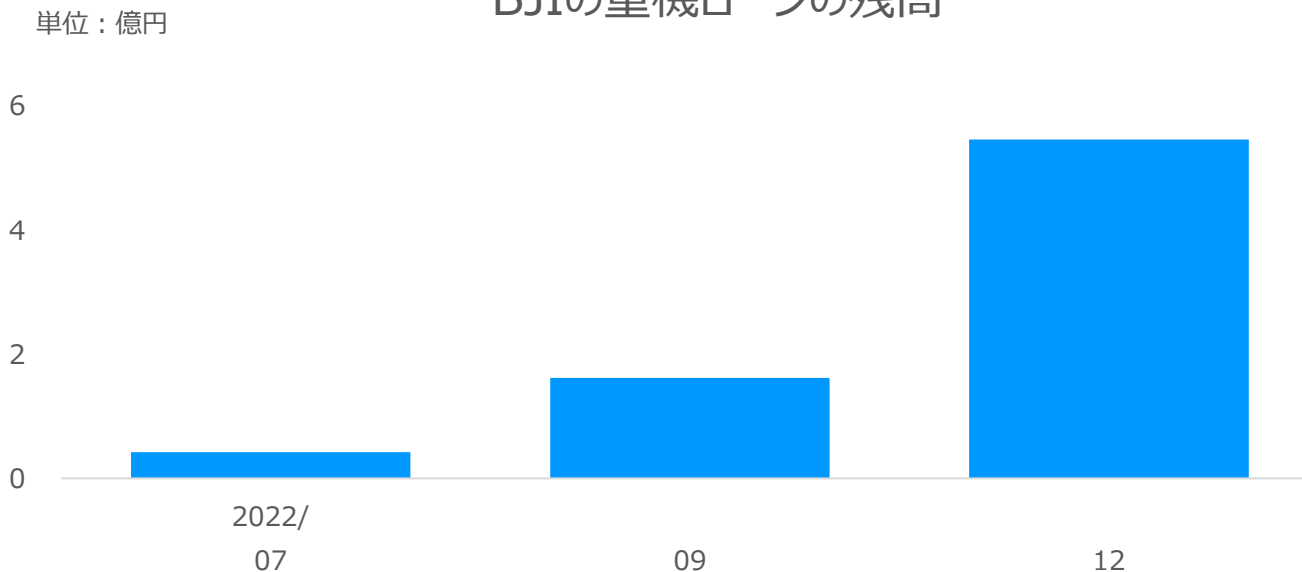


BJIの重機ローン

▶ インドネシアにおいては重機の需要が高く、業務提携を通じたBJIの重機ローンは拡大

日系グループ	提携先	提携日
神戸製鋼所	PT Daya Kobelco Construction Machinery Indonesia	2022年7月
日立建機	PT Hexindo Adiperkasa	2022年8月

BJIの重機ローンの残高



※BJIとPT Daya Kobelco Construction Machinery Indonesiaとの調印式の様子



※BJIとPT Hexindo Adiperkasaとの調印式の様子

(ご参考) インドネシア銀行業界の成長ポテンシャル

- ▶ インドネシアは2020年から2021年を除けば、ほぼ5~6%の経済成長が継続
- ▶ ローン対GDP比率は、東南アジア諸国の中で低く、経済成長に伴い今後さらに上昇することが予想
- ▶ インドネシアの人口は全国で約2億7千万人と世界第4位
- ▶ 純金利マージンは、他の主要東南アジア諸国より高い

インドネシアの実質GDP成長率の推移

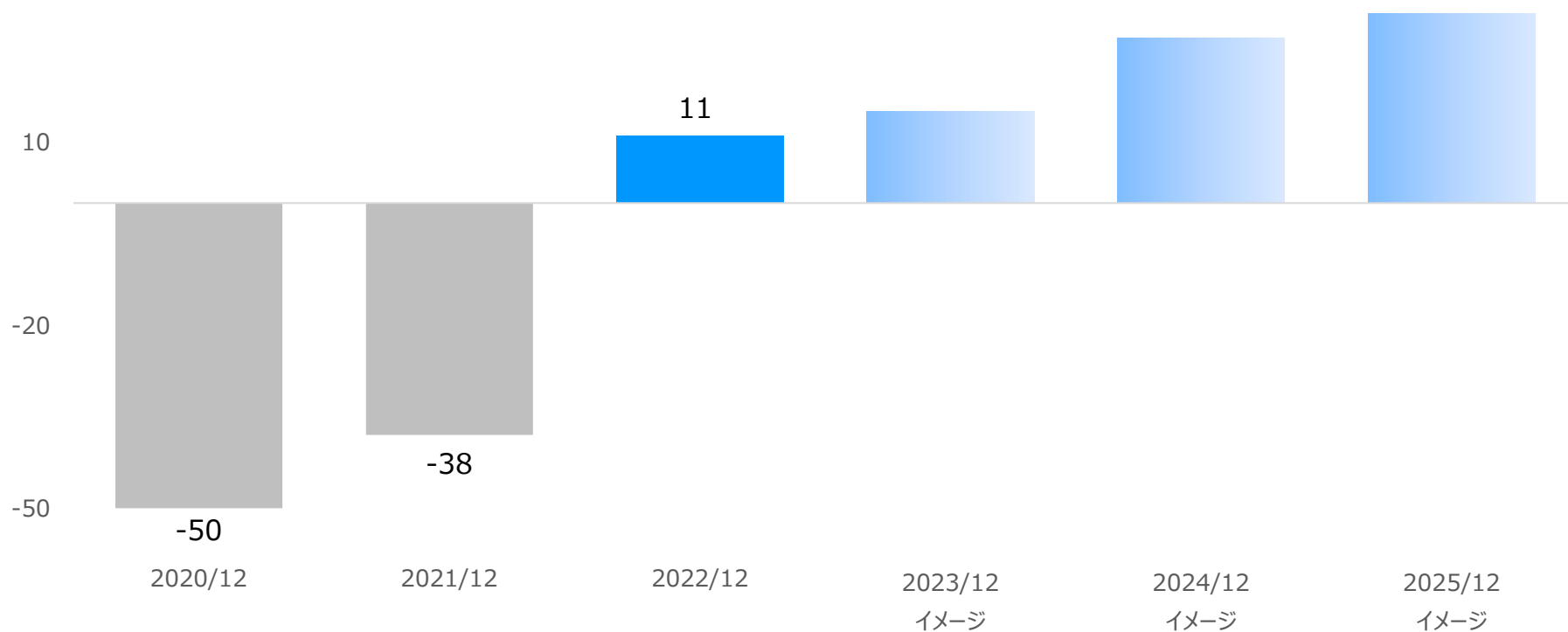
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
経済成長率(%)(実質)	6.17	6.03	5.56	5.01	4.88	5.03	5.07	5.17	5.02	-2.07	3.70	5.31

(出所) インドネシア中央統計局

BJIの営業利益の成長イメージ

- 2020年1月の新体制以降3年で黒字化
- 2023年12月期以降は黒字拡大を計画

単位：億円

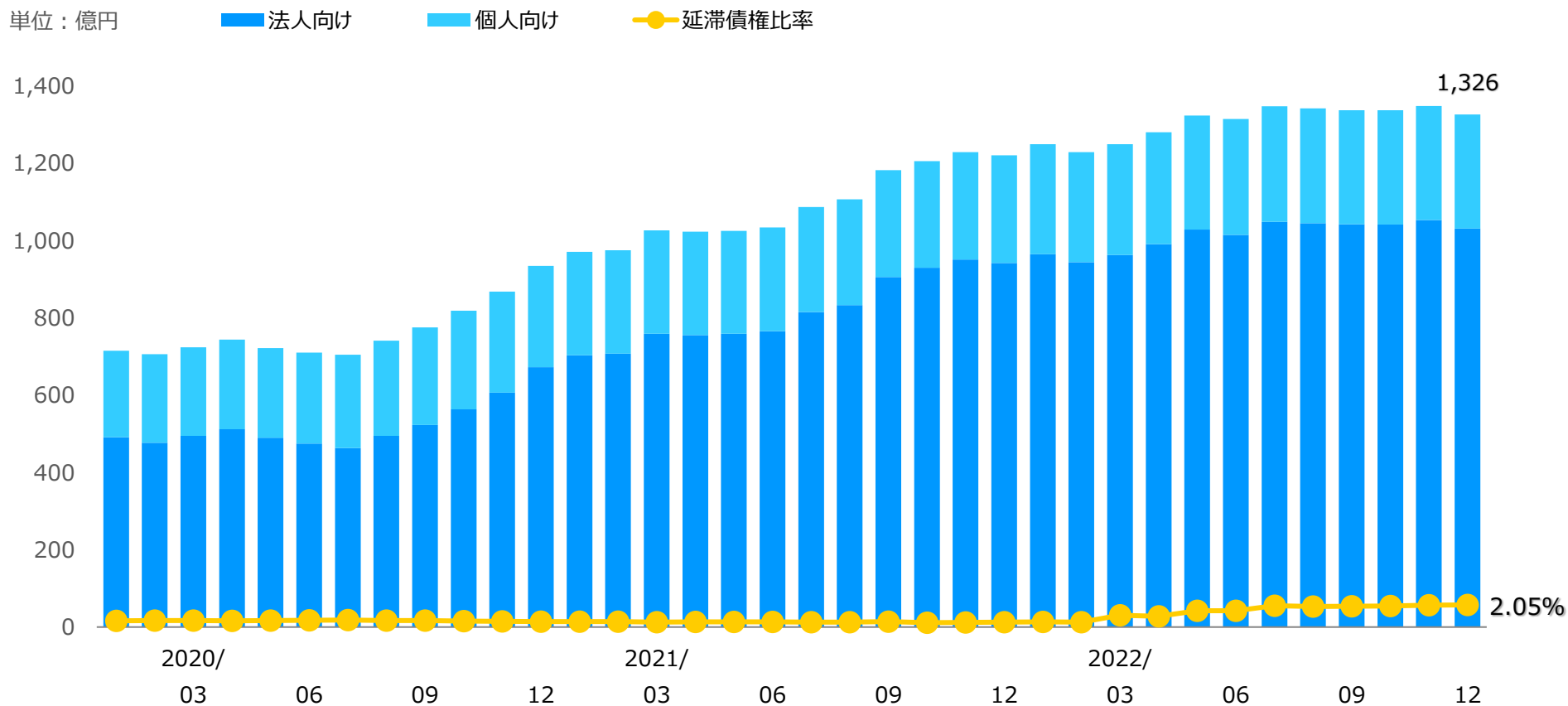


東南アジア金融事業（カンボジア）

2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

JTRB 貸出残高と延滞債権比率の推移

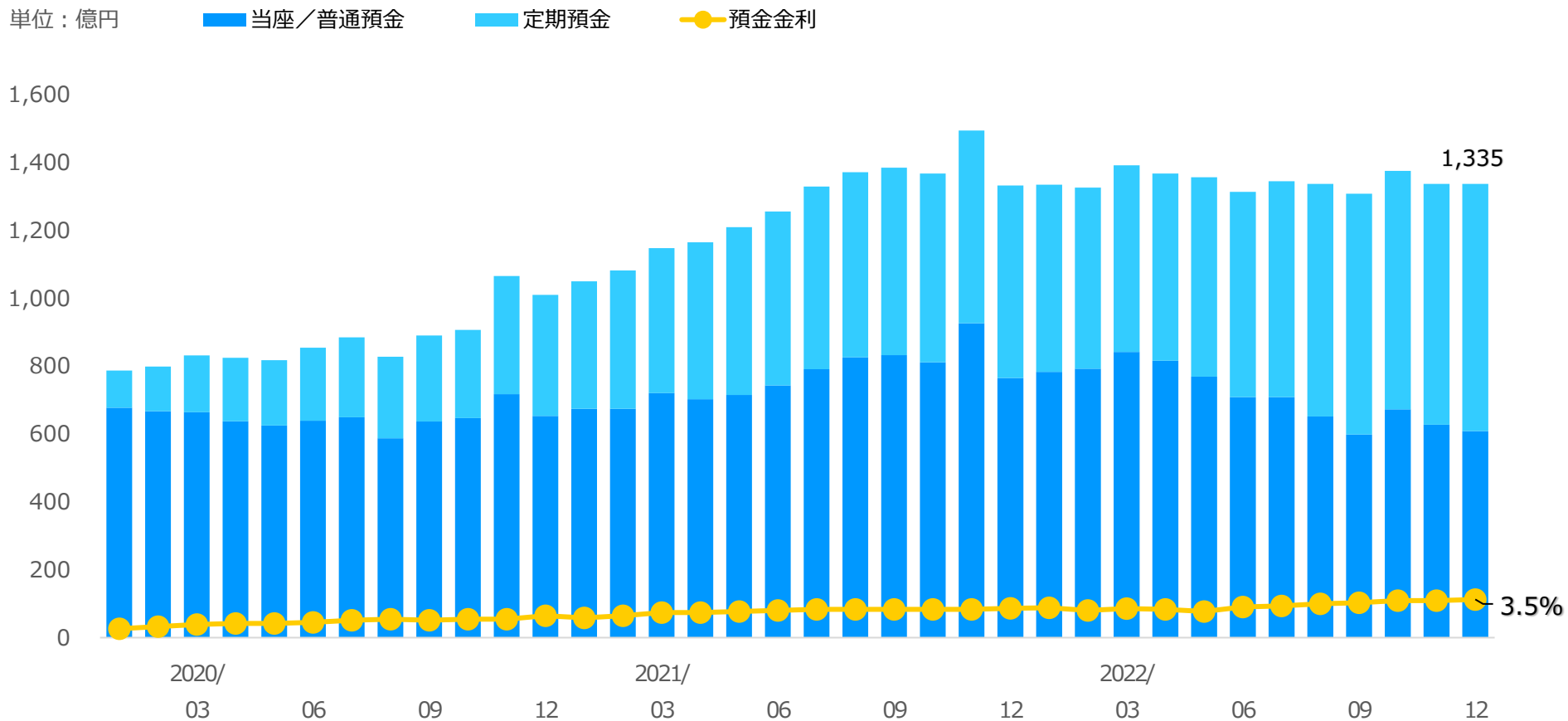
- 貸出残高は前期比9%増
- 延滞債権比率は足元では若干上昇ながらも依然として低水準



(※) 現地通貨 (USドル) に2022年12月末レート (1USドル=132.70円) を乗じて表示

JTRB 預金残高と預金金利の推移

- 預金金利は米国金利上昇の影響を受け、上昇が続くも低水準
- 引き続き新商品を開発・販売するなど、預金獲得のための施策を推進

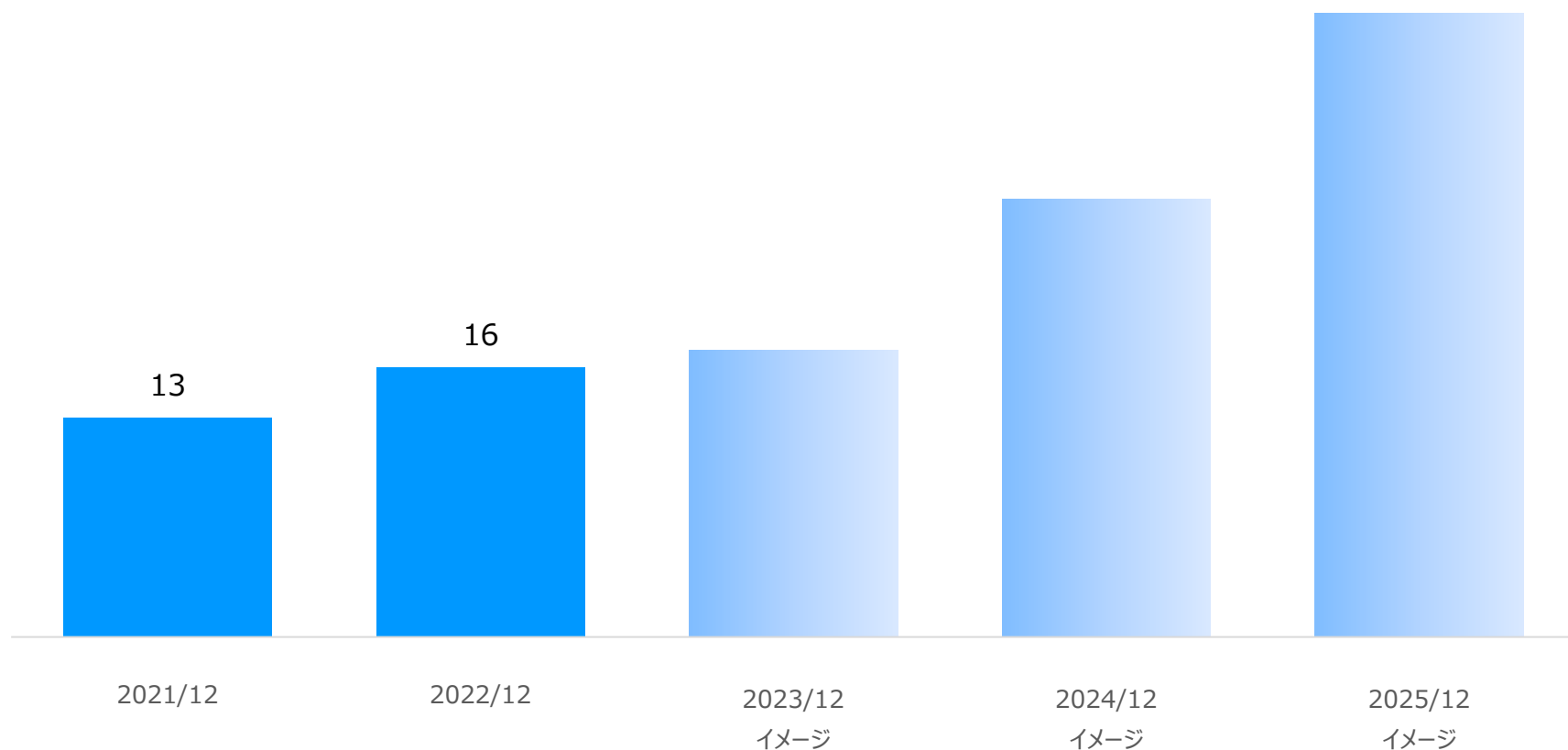


(※) 数値は現地通貨 (USドル) に2022年12月末レート (1USドル=132.7円) を乗じて表示

JTRBの営業利益の成長イメージ

➤ 2023年12月期以降も黒字拡大を計画

単位：億円



日本金融事業

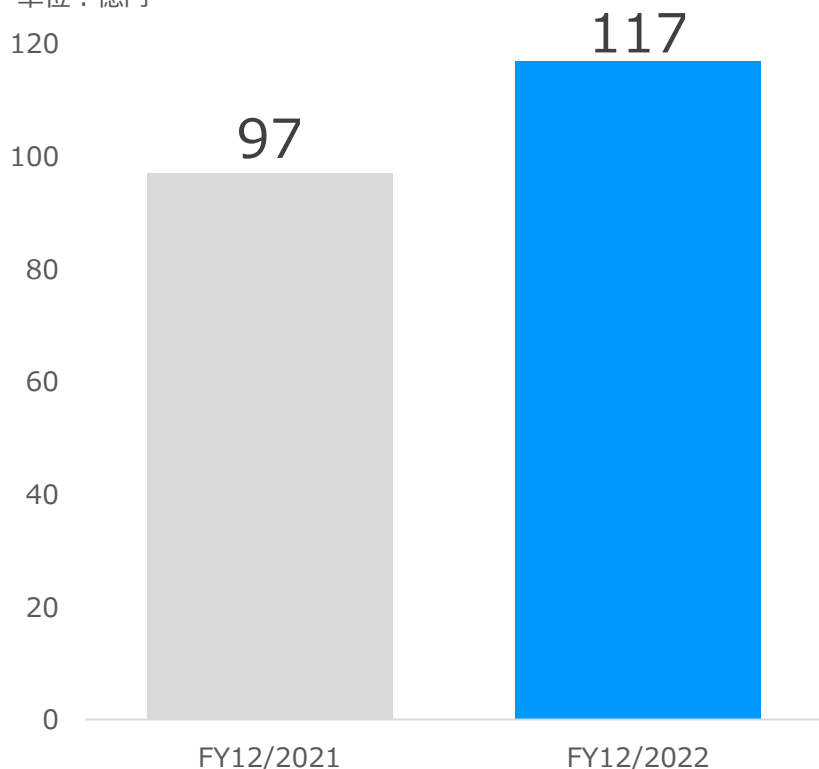
2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

日本金融事業の営業収益と営業利益（前期比）

- ▶ JTG証券やNexus Cardの子会社化が増収要因
- ▶ 営業利益は減益となったものの、計画の37億円を上回って着地

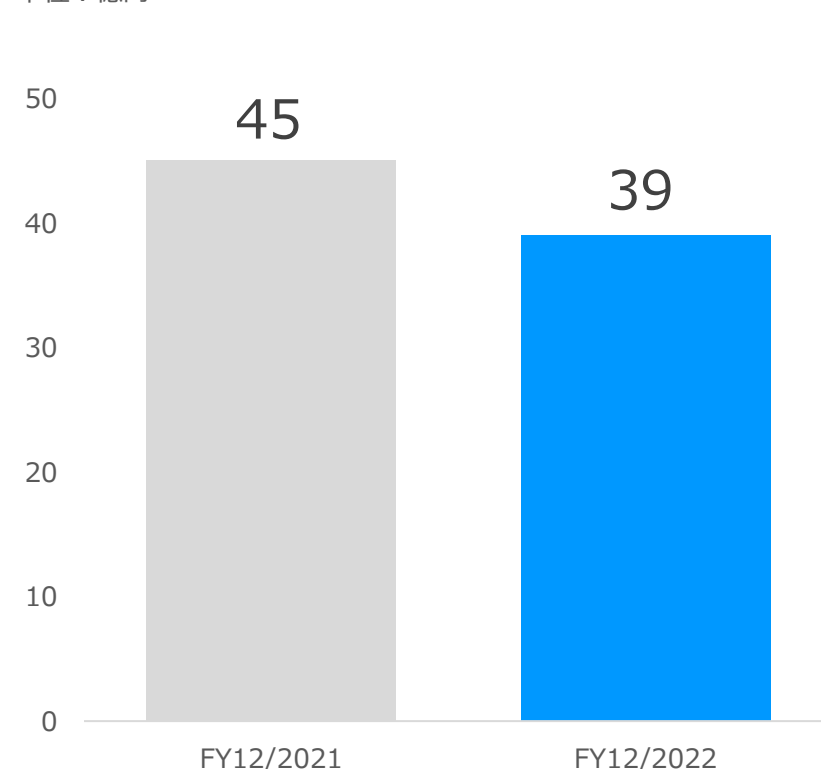
営業収益

単位：億円



営業利益

単位：億円

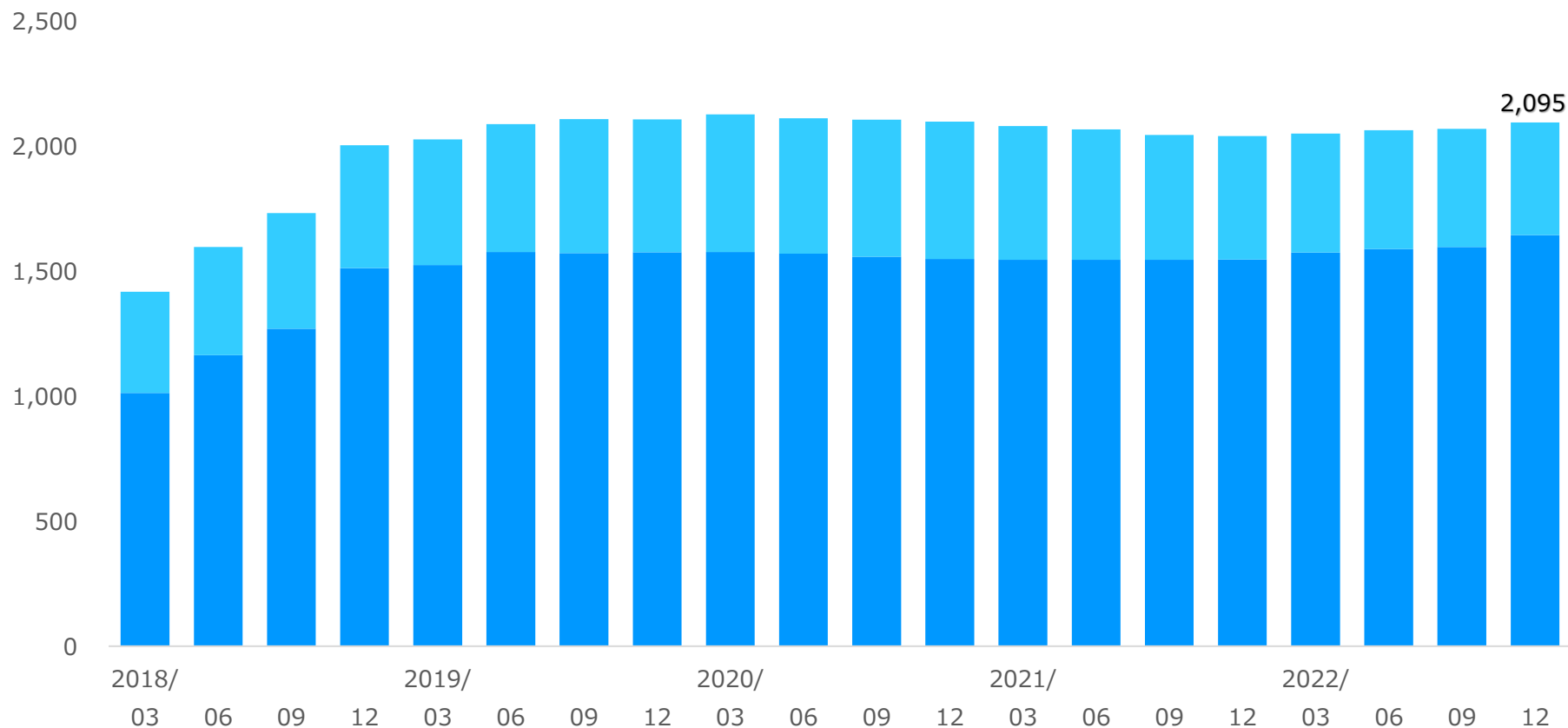


日本金融事業の保証残高の推移

▶ 昨年来の取り組みが奏功し、保証残高は緩やかながら増加傾向が持続

単位：億円

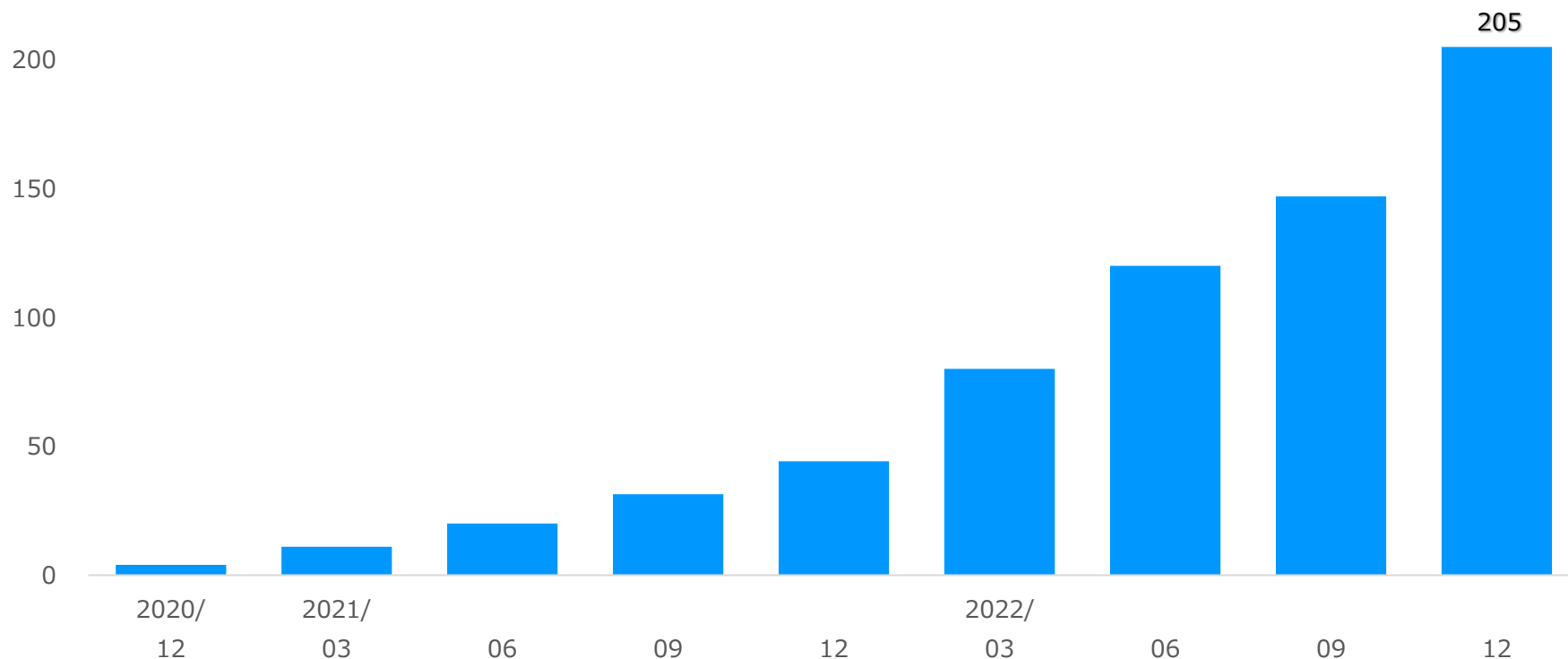
■ アパートローン保証 ■ その他保証



中古アパートローン保証残高の推移

- 2020年11月に開始した中古アパートローンの保証残高は、2022年12月末時点で205億円と計画の145億円を上回って着地

単位：億円



【トピックス】Jグランドの不動産事業の取り組み

- 2021年の実質スタートから2期目で売上約30億円、営業利益約1億円を計上し黒字化、累計23棟、約30億円が日本保証の保証残高に寄与
- 2023年は61棟で100億円超の売上を計画し、既に1月時点で24棟、約80億円の竣工・販売予定を確保
- 金融機関とのビジネスマッチングにより、竣工前に販売する体制が確立
- 「ローンがつかなら1棟マンションのオーナーになりたい」投資家の声にお応えしたビジネスモデル



※蓮根パーズ（都営三田線 西台駅 徒歩5分）

※不動前パーズ（東急目黒線 不動前駅 徒歩4分）

**Jグランドのブランドコンセプトは、
保証したい物件を自ら建築・販売すること**

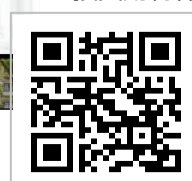
J-ARCシリーズ第1弾 竣工前に完売



※パーズ（JR吉祥寺駅 徒歩9分）



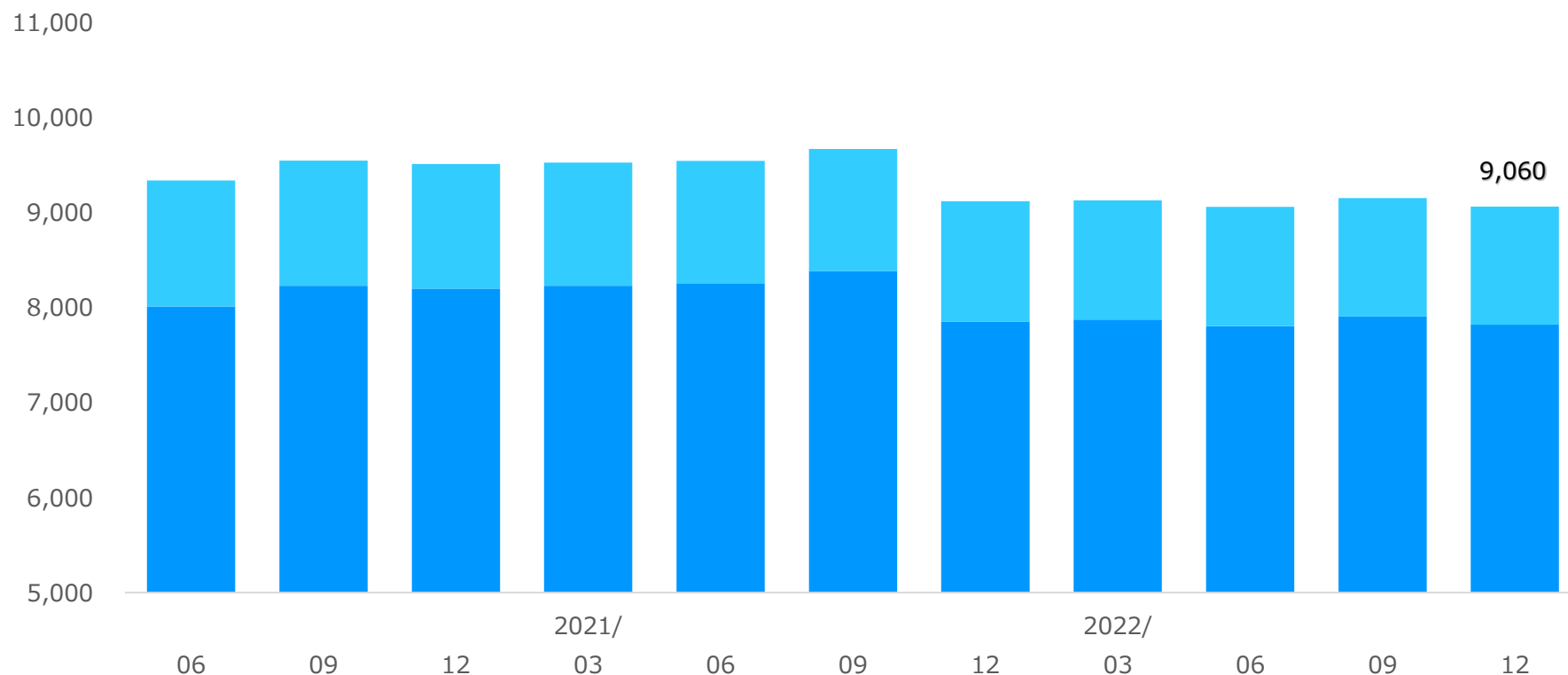
富裕層会員サイト
「Owners Site」にて
投資用物件を紹介



サービス事業における請求債権残高

- ▶ パルティールは2022年に226億円の債権を買取
- ▶ パルティールにて取扱う債権については、回収が好調な中で買取りも順調であり残高は横ばい

単位：億円 ■ パルティールにて取扱う請求債権残高 ■ 日本保証が保有する請求可能債権残高



(※) 請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む。

韓国及びモンゴル金融事業

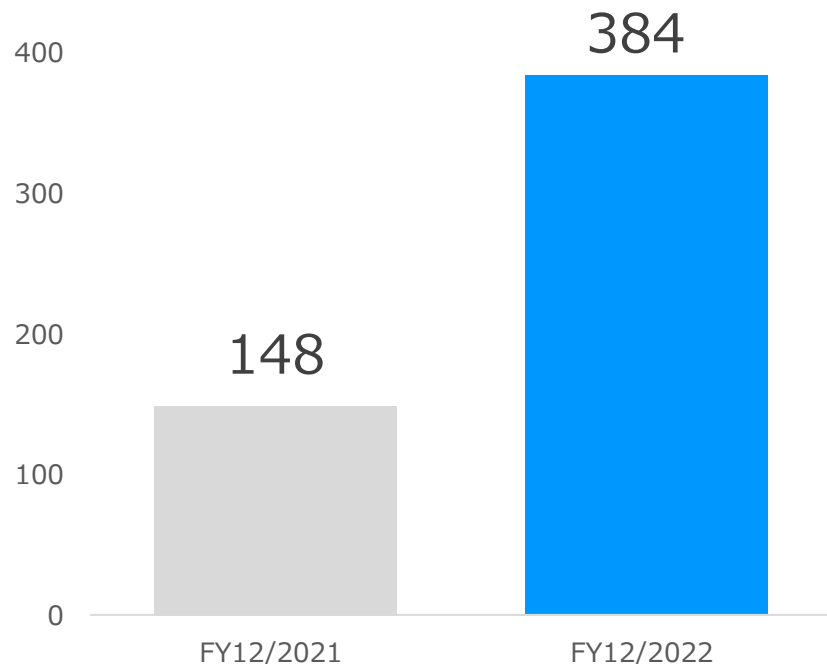
2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

韓国及びモンゴル金融事業の営業収益と営業利益（前期比）

- ▶ 営業収益はJTCSBの子会社化と貯蓄銀行業務における利息増加から前期比2.6倍
- ▶ 事業成長に加え、負ののれん益97億円の計上もあり、営業利益は大幅増益

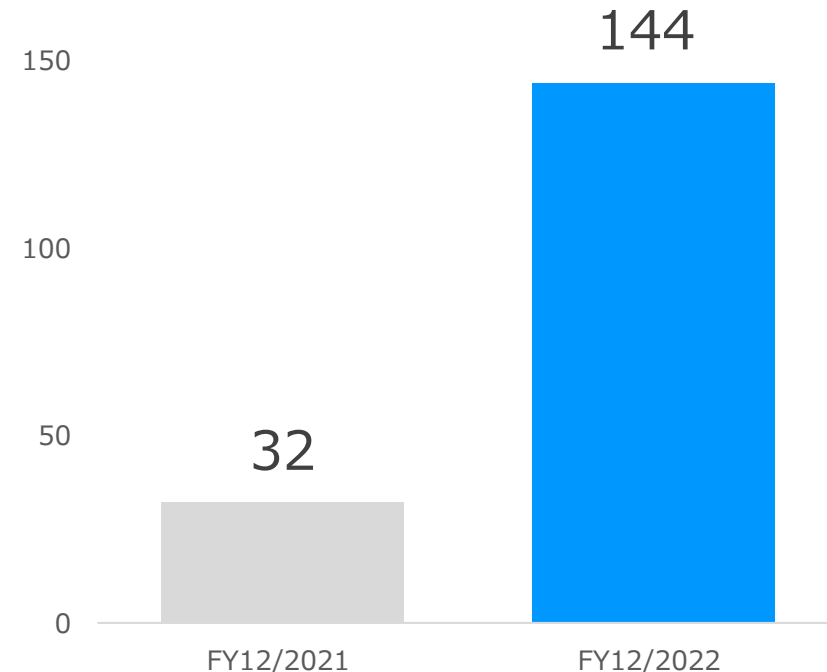
営業収益

単位：億円



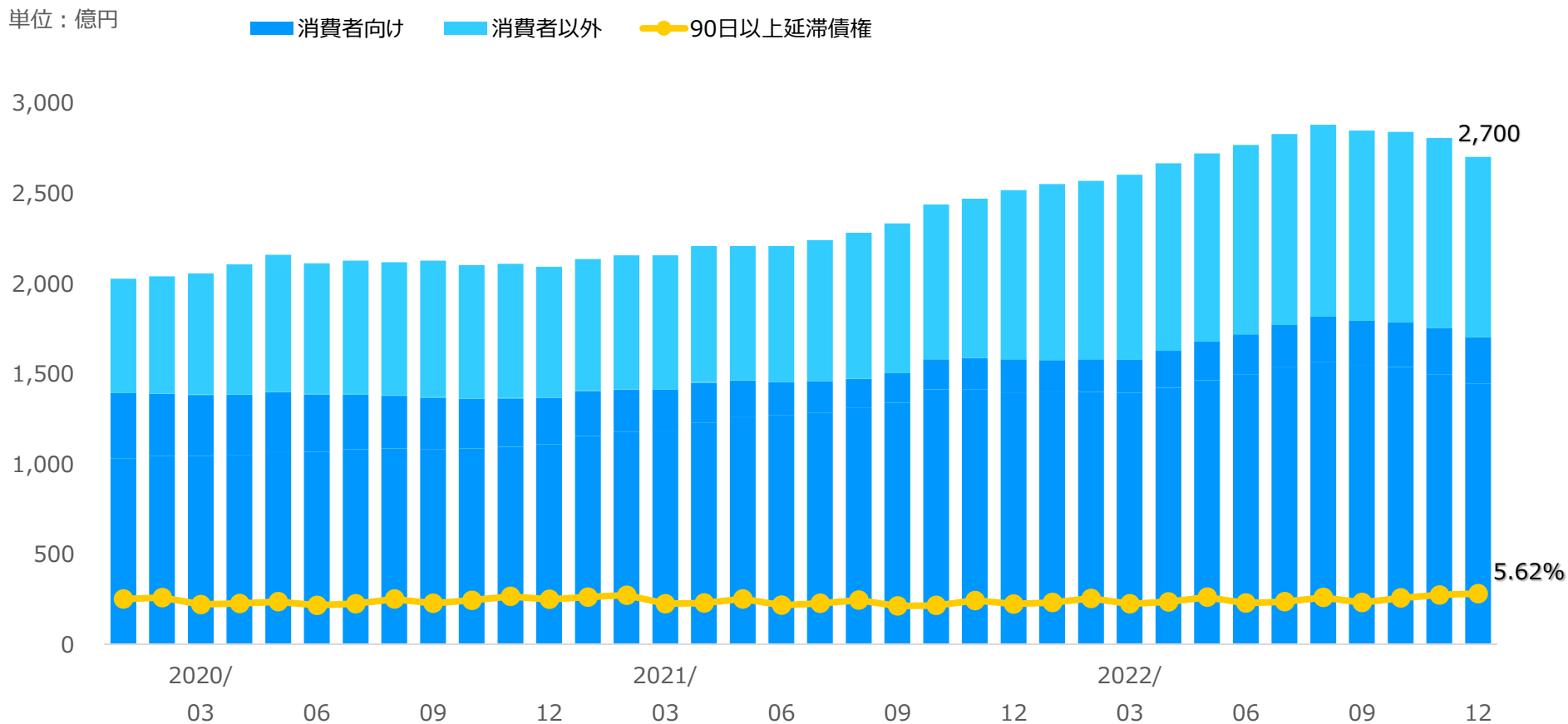
営業利益

単位：億円



JTCSBの貸出残高と延滞債権比率の推移

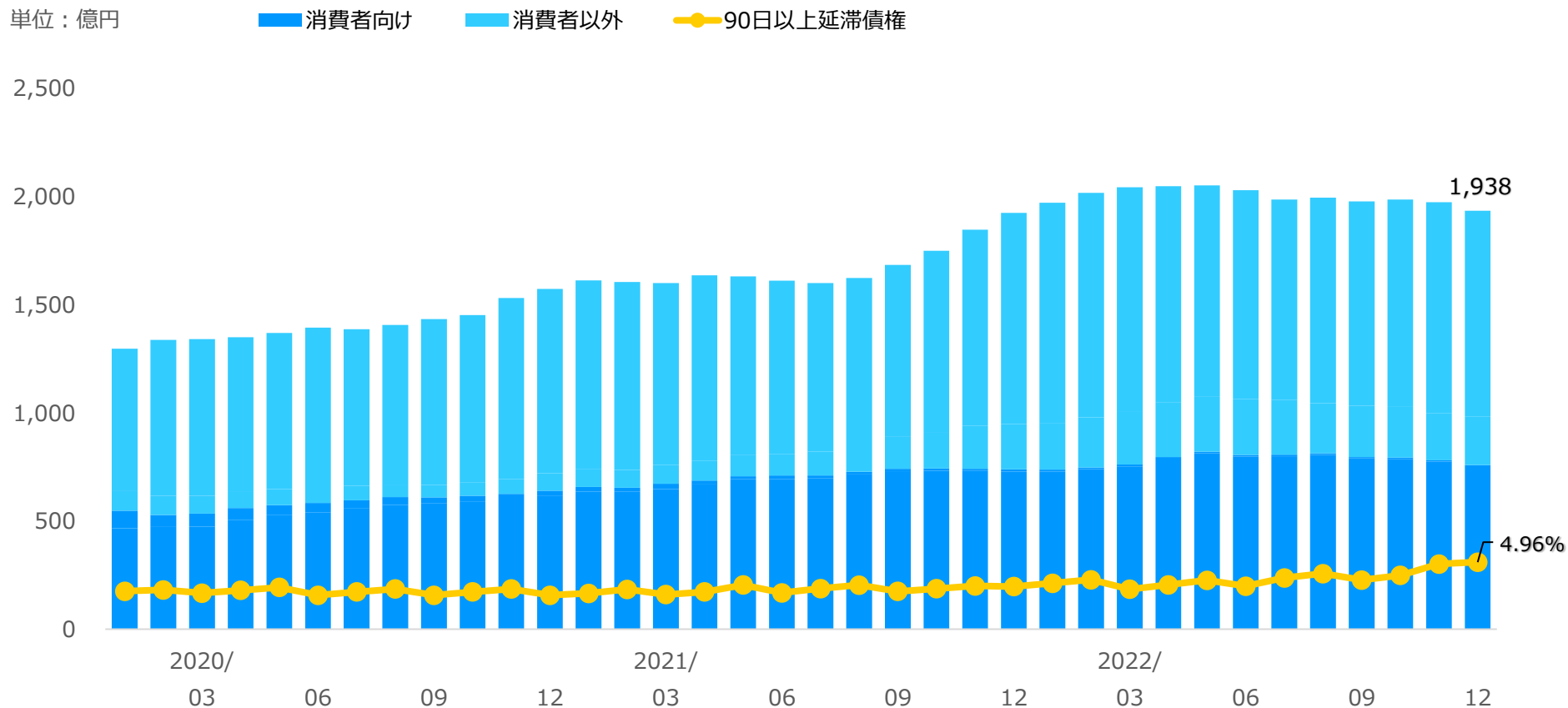
- 貸出残高は戦略的に抑制し、2,700億円に減少
- 90日以上延滞債権比率は5%台半ばに上昇



(※) 現地通貨に2022年12月末レート (1韓国ウォン=0.1055円) を乗じ表示

JTSBの貸出残高と延滞債権比率の推移

- ▶ 貸出残高は戦略的にコントロール
- ▶ 90日以上延滞債権比率は5%弱まで上昇



(※) 現地通貨に2022年12月末レート (1韓国ウォン=0.1055円) を乗じ表示

投資事業

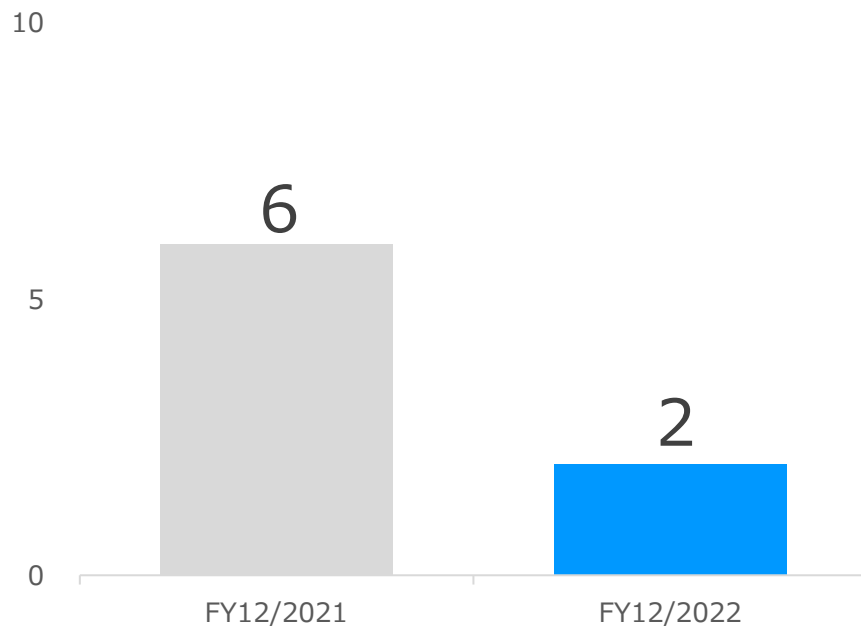
2022年12月期 セグメント別業績と取り組み

投資事業の営業収益と営業損益（前期比）

➤ 前期にはシンガポールでの勝訴判決に係る受領額をその他の収益に計上していたため減益

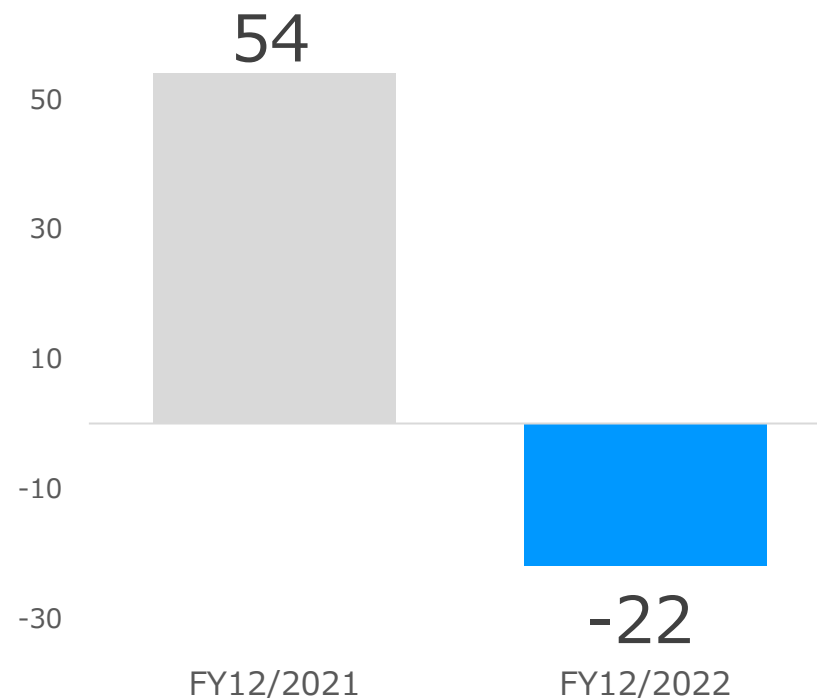
営業収益

単位：億円



営業損益

単位：億円





- 01 | 現状と今後の見通し
- 02 | 2022年12月期 連結決算概要
- 03 | 2022年12月期 セグメント別業績と取り組み
- 04 | 2023年12月期 連結業績予想と3か年計画

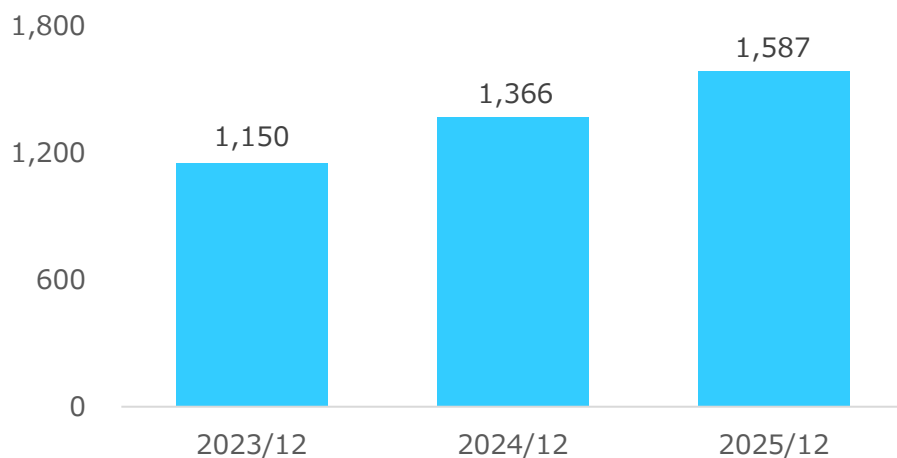
3か年計画（2023年～2025年）

- 2023年12月期の営業収益は、1,150億円と過去最高を見込む
- 韓国の金利上昇等の影響を受け、営業利益は2023年に一旦減益になるも、2024年には110億円、2025年は191億円と拡大していく見込み

	2023/12	2024/12	2025/12
営業収益	1,150億円	1,366億円	1,587億円
営業利益	85億円	110億円	191億円

営業収益の予想

単位：億円



営業利益の予想

単位：億円

